DOUBLE RELEASE
A CONTACT
接触篇
Be INVOKED
発動篇
THE IDEON
イデオン

EXPOSITION

解説

『伝説巨神イデオン』は、昭和55年５月より翌56年１月にかけて、東京12チャンネル（現テレビ東京）より放映されたテレビ・アニメーションです。放映された全話数は39話でしたが、本来は43話分の大河ドラマとして構成されていました。つまり、４話分の大団円部分を残したまま終了したのです。そして、終了時には、最終部分の製作準備がなされていました。

今回の劇場用アニメーション『伝説巨神イデオン』は、テレビ放映された部分を第一部「接触篇」､最終４話分を第二部「発動篇」とし、このいわば独立した二本のアニメーション映画を、一挙に公開する〝ダブル・リリース〟方式を採用しました。これは、今までのアニメーションを超えた視覚効果をねらい、それを支えるストーリーを、初めて『イデオン』に接する人にもわかるようにするためです。

遠い未来、人類が広大な宇宙空間を征服し、銀河系はもとより、遠くアンドロメダ星雲にまで植民地を持つ頃――『伝説巨神イデオン』は、そんな時代を舞台にした物語です。

アンドロメダ星雲の地球植民地ソロ星の一角から、この星に住んでいた文明人の遺跡が発見された。それは、３台の機械と、１隻の巨大な宇宙船であった。その頃、ソロ星の衛星軌道を回る異形の宇宙船から、小型機がソロ星へと降下を開始した。彼らは、バッフ・クランと名のる異星人で、その星に伝えられる伝説の力〝イデ〟の調査隊だった。

ソロ星で、地球人とバッフ・クランは出会った。しかし、それは戦闘という最悪の形での出会いであった。その戦闘の中で、調査中の遺跡が動きはじめたのだ、３台の機械は、自ら変形しひとつになった。そして、そこに巨大なロボットが出現した。

物語の中心となるのは、この遺跡――巨大ロボット〝イデオン〟と、ソロシップと名づけられた宇宙船です。そして、このふたつの神秘のメカに、何らかの関係を示す〝イデ〟――無限の力を持つといわれるエネルギーの存在があげられます。ソロ星での戦闘は、コスモやベス、カーシャ、それに、バッフ・クランの娘カララたちを、宇宙への逃避行に追いやってしまいます。その孤独な旅の中で、ソロシップの若者たちは、人間を超越した巨大な意志に気づきはじめるのです。その巨大な意志は、人々に何をさせようというのか――!?　この物語は、ＳＦアクションの形を借りて、人間の生と死、そして業などを描いています。

総監督は『機動戦士ガンダム』の富野喜幸、作画監督に湖川友謙、美術監督に中村光毅というスタッフが描く画面に音楽、すぎやまこういち、音響監督、浦上靖夫が新たな音のイメージをつけ加えます。『伝説巨神イデオン』は、全スタッフの熱気が結集した、大作アニメーションです。

MESSAGE
最終回のために

総監督
富野喜幸

映画監督という作画的行為を成す者が己の作品を公開するにあたって言うべきことではないと承知しながらも、やはり書かざるを得ないということは苦しい。

作り手側の事情があるからといって、評価なり論評される対象は作品であって、作品が生れる事情ではない。しかし、この〝イデオン〟についてはどうしても記しておかなければならない事と思えるので、ここに記させていただく。

元来がテレビのシリーズ物であった〝イデオン〟はかなり膨大なストーリーをかかえこんでいて、3時間強の分量の中に収まるものではなかった。にもかかわらず、あえて一挙公開という暴挙に出たのに3つの理由があった。

1つは、物語の気分が全くみえないダイジェストとすることを嫌ったということ。2つ目はテレビ版のダイジェストでしかない作品を映画版と銘うって2本、3本と上映して、ファンたちに必要以上の出資を強要することを嫌ったということ。特にこれについては、この数年のアニメ・ブームとかいう風潮の中、所詮はテレビ版の改竄でしかない映画版が大手を振って通るということへの疑問があるからである。

小生に関して言えば、それを先の〝ガンダム〟でやった張本人である。張本人であるから、その痛みが分る。殊に、ファンに対して3度まで出資を強要したということには申しわけないことだと思っている。同じ金を使うのならもっと他の良きことへ使って欲しいという思いが、他の世の父親たちと同じにあるからだ。

しかし、〝ガンダム〟の時は、〝ガンダム〟を成立させたティーン・エイジャーの力を大人たちに示したかったという発意があった。だから、決して間違ったことはやってはいないという自信があった。しかし、出資を強要したのではないのかといううしろめたさは変ることなくあった。

それらを回避するためには〝イデオン〟は一挙公開しかないと決意していた。そのために己が泥をかぶってすむことならば、それで良い、と……。

その結果起る作品についてのあらゆる非難を被ることを覚悟で、小生は針の筵に座っている。

そして、第3の理由はもし、1部、2部という興行形式をとった時に、1部の入り（作品の出来ではなく）の状況によって、〝イデオン〟の本来の完結篇が、再び公開されることなく、終った場合、〝イデオン〟は本当に未完に終ってしまう。それを最も恐れた、といえる。

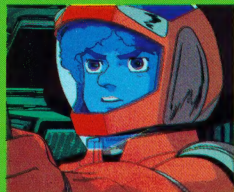
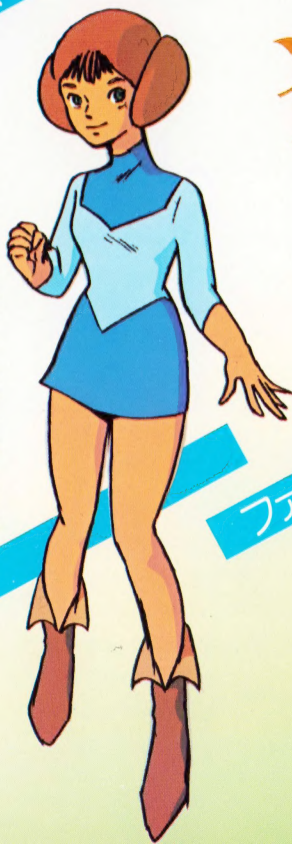
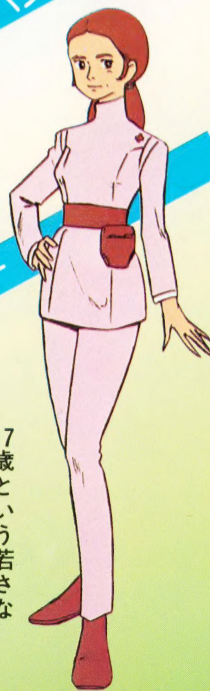
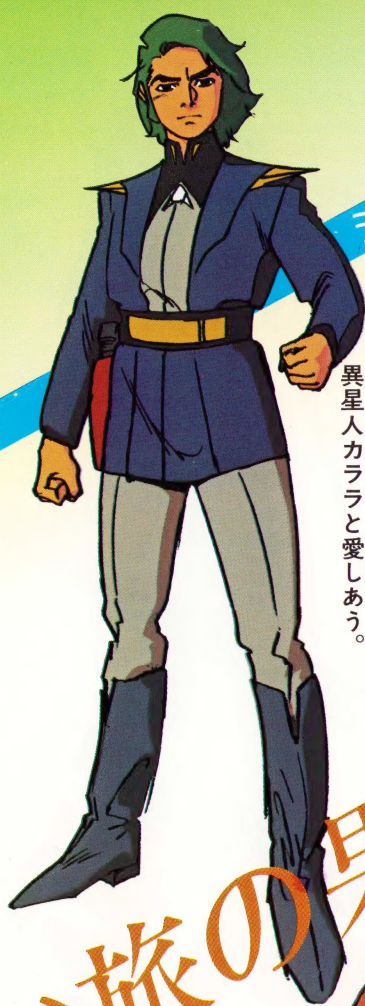
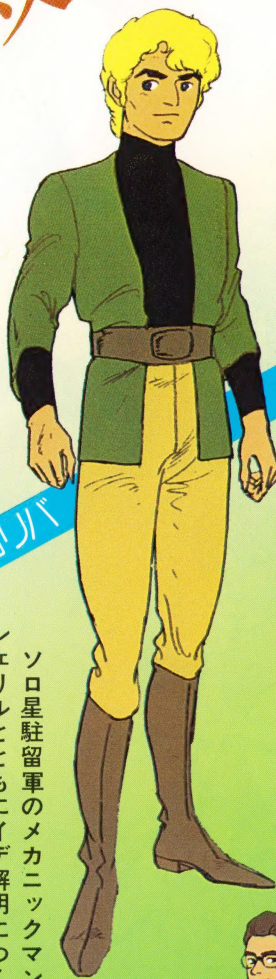
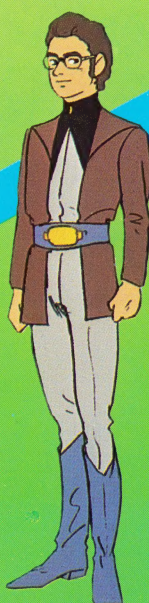
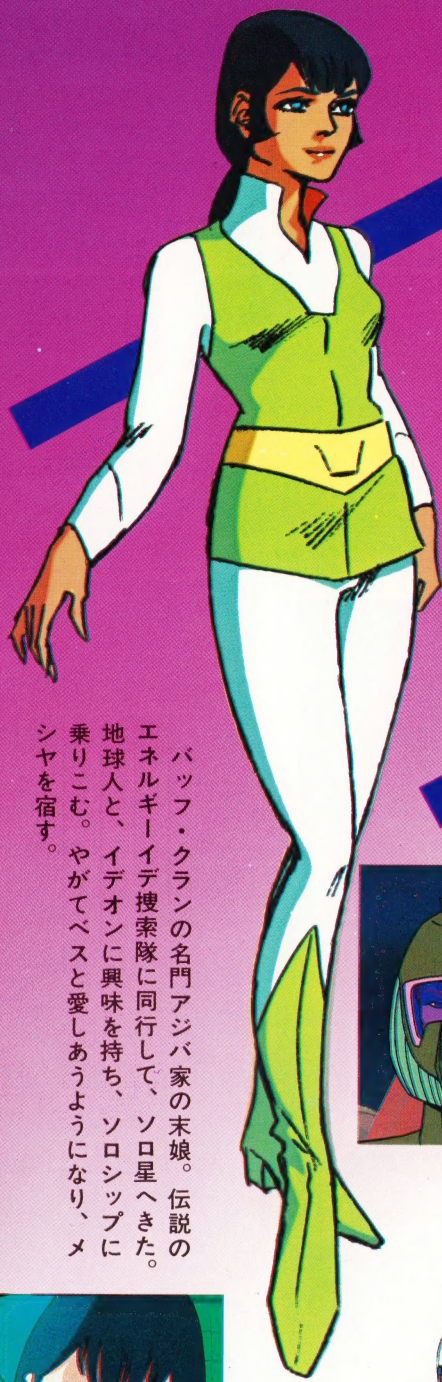
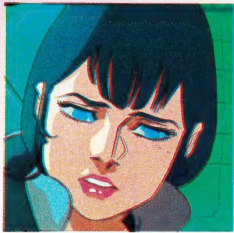
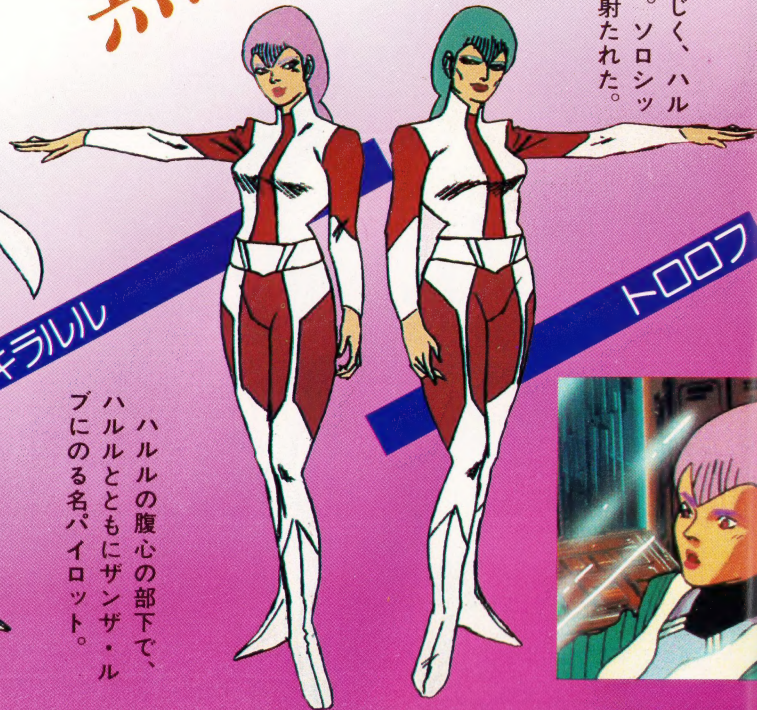
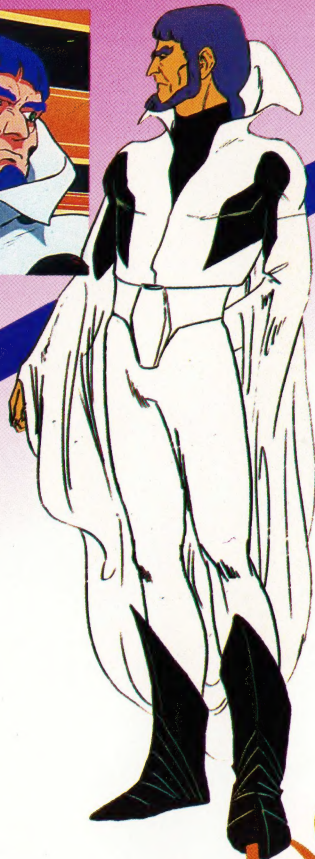
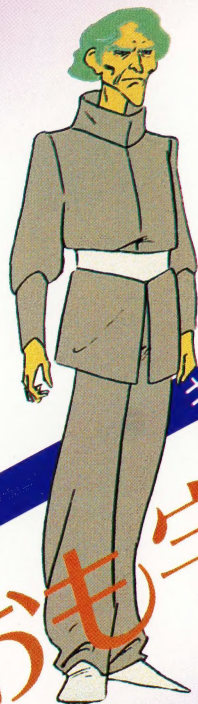
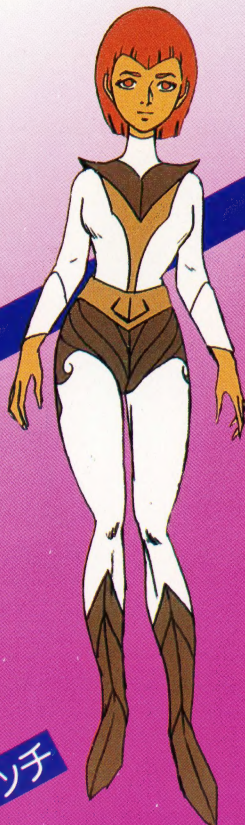
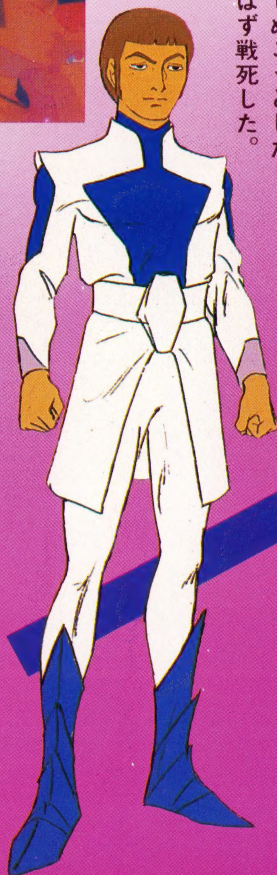
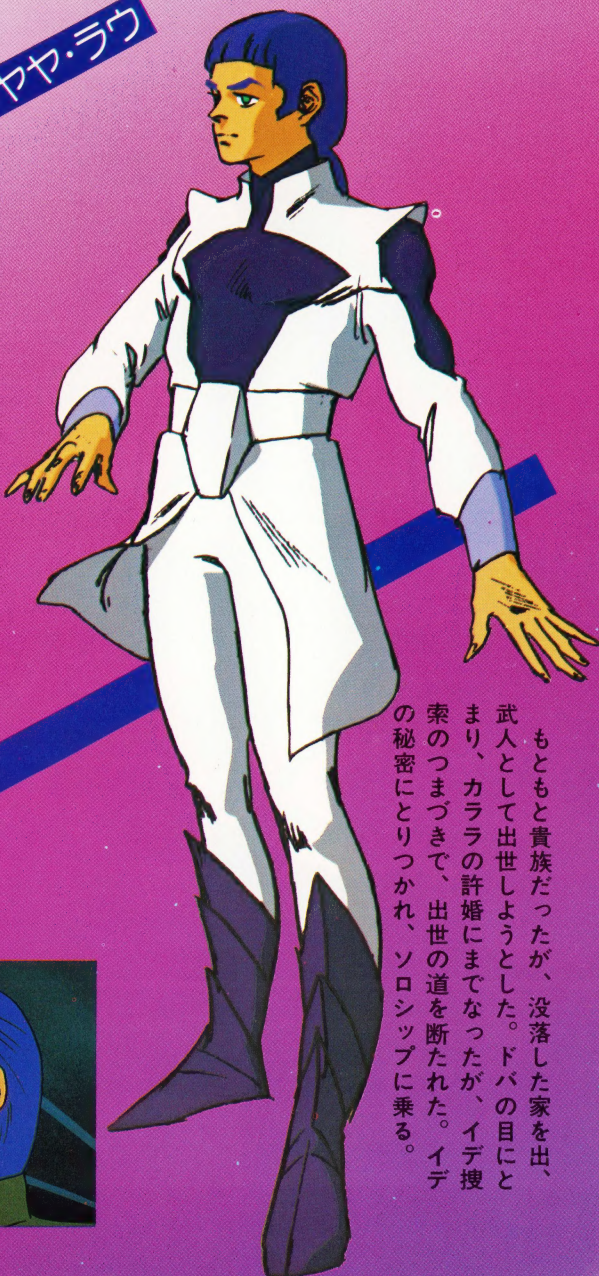
それは事情論とは別に、作り手側が最も恐れることである。そのために、ともかく完結部分を描き、発表したいという作り手のできる最少限度のことをやってみようとしたわけである。我々スタッフはファンと共に、かつて見ることのなかったエピローグを見たかったのだというたった1つの点に賭けて、今回のダブル・リリース方式を採用したのである。

そのために映画版のドラマは、ドラマとして成立することなく発端と発動を直結させた。まとめたのではない。直結でしかない。

これは作劇を遠く離れ、そのために各スタッフから声優から「冗談じゃない」という声があがった。

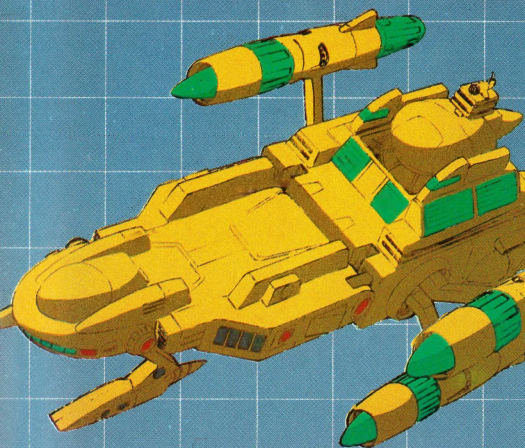
矛盾に満ちて、何が物語なのかという思考さえも働かせることなく、〝イデオン〟は〝発動篇〟のラスト・アクションに入る。それ故、どう断罪されてもそれに抗弁する術を小生は持たない。

しかし、それを承知で公開の機会を与えて下さった松竹及びに各劇場の関係者には、心から御礼申し上げる。そして、それを承知で観に来て下さった皆様方にも心から御礼申し上げたい。

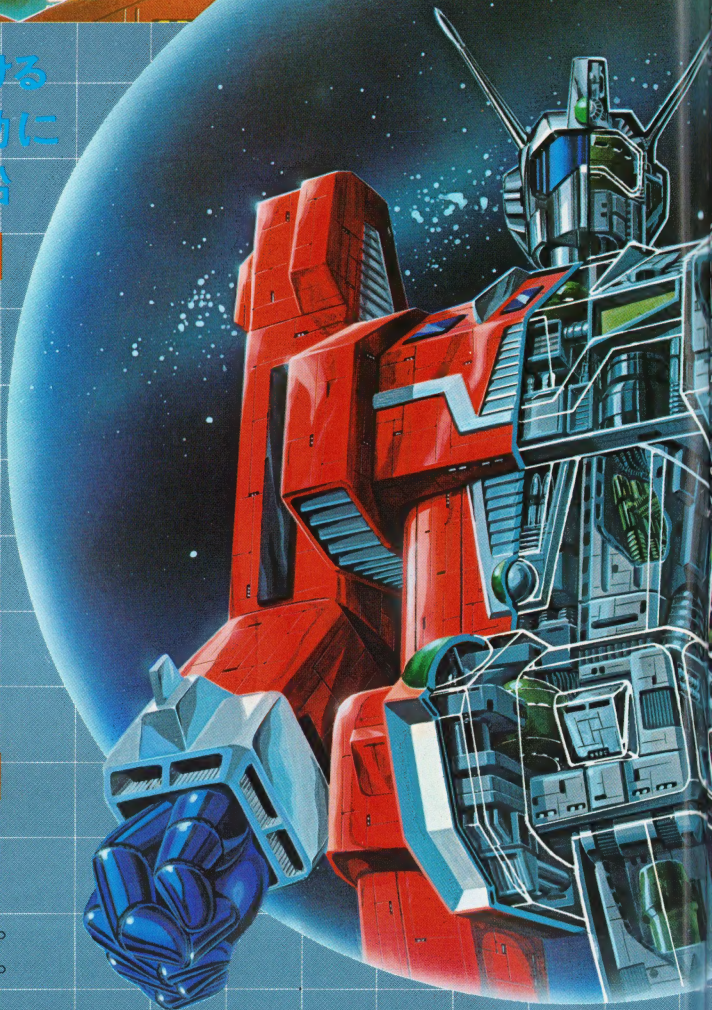
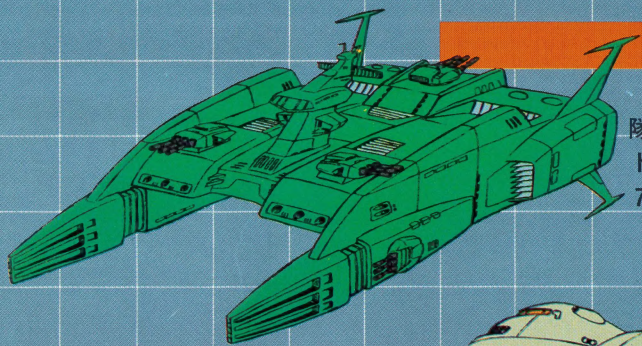
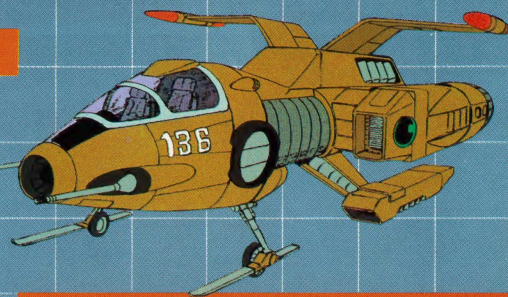
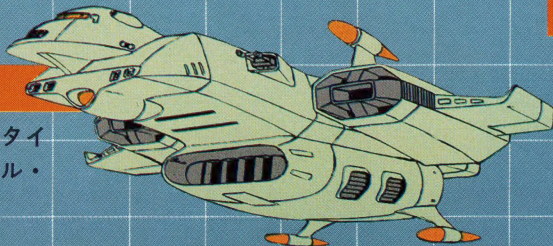
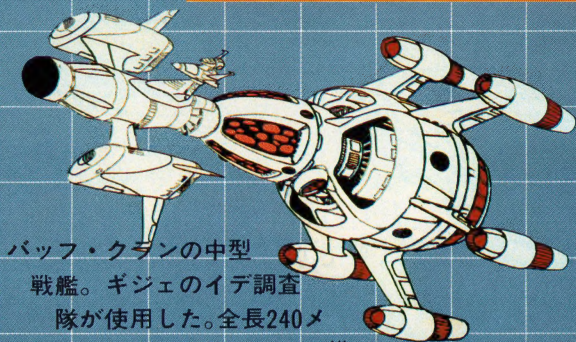
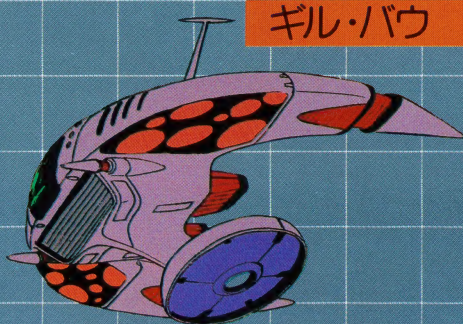
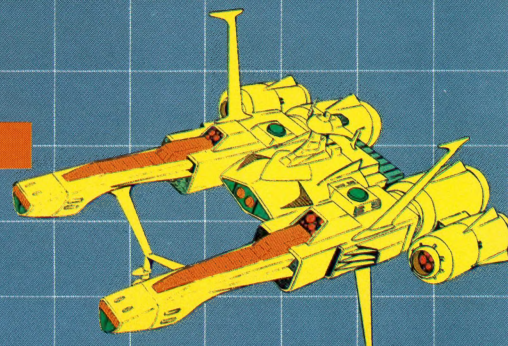
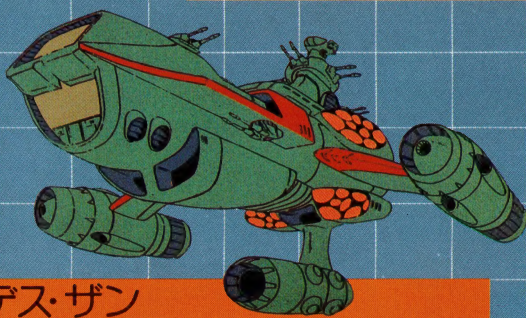
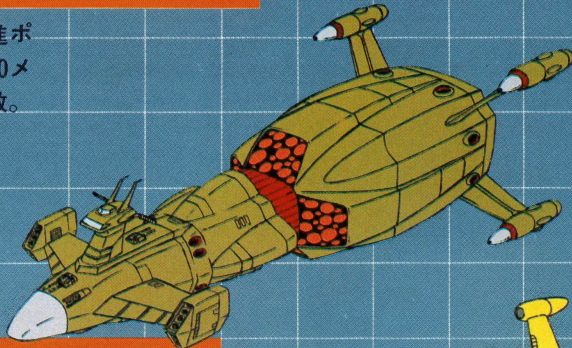
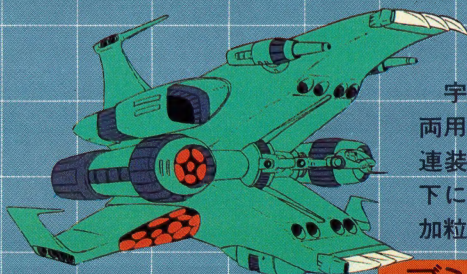
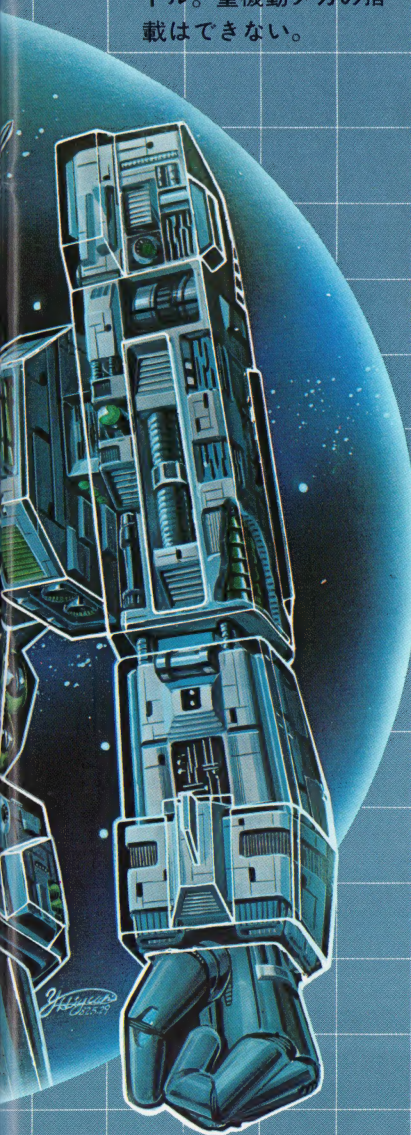
そして、各スタッフに対しても……。本映画は〝イデオン〟の最終回でしかないと言える。しかし、ここに至る間に我々スタッフの万感の思いがこめられている事もまた事実である。非は全て小生にある……。

MAIN CHARACTER PROFILE
PEOPLES
in TERRANER
逃亡という悲し
ユウキ・コスモ
ソロ星科学庁長官の息子で、メカマニア。バッフ・クランがソロ星を襲ったとき、たまたま遺跡から発見されたソル・アンバーに乗ったことから、イデオンのメインパイロットになる。コスモの純粋さが、イデの発現に大きく影響した。
アフタ・デク
ソロ星移民の子ども。コスモの弟分で、コスモの副操縦士として、イデオ・デルタに乗る。
ファトム・モエラ
ナブール・ハタリ
ソロシップのメインパイロットで、エレクトロニクスのエキスパートでもある。
数少ない、ソロ星駐留軍の生き残りで、イデオノバのパイロット。アディゴと戦闘中に死亡。
イムホフ・カーシャ
ロケット工学に精通した17歳の少女。イデオ・バスタのパイロット。
フォルモッサ・リン
シェリルの妹で、優秀な姉に劣等感と、ある種の敵愾心を持っていた。ソロシップの育児係。
ファム・ラポー
17歳という若さながら、有能なソロシップの看護婦。モエラと恋をする。
バンダ・ロッタ
ソロ星移民の娘。両親を殺された恨みをはらそうと、マヤヤを撃ち殺し、カラも殺そうとした。根は優しい15歳の少女。

い旅の果てに救いはあるのか
ジョーダン・ベス
地球の名門出の優秀な軍人。ソロ星の生残り軍人で最高位だったことから、ソロシップの指揮をとる。やがて仲間となった異星人カララと愛しあう。
パイパー・ルウ
ソロ星生まれの赤ん坊。幼いゆえの純粋防衛本能が、イデと反応し、ソロシップを守った。
ノバク・アーシュラ
幼いながらもしっかりした性格で、子どもたちのリーダー的存在。
キッチ・キッチン
植民星キャラルの少女。コスモとの間に、淡い恋がめばえるが、バッフ・クランの攻撃に散った。
イラ・ジョリバ
ソロ星駐留軍のメカニックマン。シェリルとともにイデ解明につくした。ベスの参謀的存在。
フォルモッサ・シェリル
18歳ながら、言語学のエキスパート。高名な考古学・言語学者の父とともに、ソロ星先住民族の遺跡を調査中、イデオンとソロシップを発見し、イデの秘密を解明しようとした。後に、ギジェと愛しあうようになる。
マルス・ベント
ソロシップのクルーのひとり。ギジェ、モエラの副操縦士として、イデオノバに乗る。
ギャバリー・テクノ
ソロ星駐留軍生き残りのひとり。グレンキャノンの砲手として、腕をふるった。

MAIN CHARACTER PROFILE
PEOPLES
in BAFF CLAN
無限の力への
カララ・アジバ
バッフ・クランの名門アジバ家の末娘。伝説のエネルギーイデ捜索隊に同行して、ソロ星へきた。地球人と、イデオンに興味を持ち、ソロシップに乗りこむ。やがてベスと愛しあうようになり、メシヤを宿す。
ダラム・ズバ
優秀な軍人で、ハルルの幼なじみ。つまらぬことから、気まずい仲となるが、本当は好きあっていた。
ズオウ・ハビエル・ガンデ
バッフ・クランを支配する大帝。だが軍部、財団の台頭で、実権を失ないつつある。
ハルル・アジバ
ドバの長女。女性でありながら優秀な軍人で、ソロシップ追撃に加わり、妹カララを殺すことになる。
キラルル
ハルルの腹心の部下で、ハルルとともにザンザ・ルブにのる名パイロット。
トロロフ
キラルルと同じく、ハルルの腹心の部下。ソロシップ内でロッタに射たれた。

執着か？なおも宇宙をゆく人々
ドバ・アジバ
ハルル、カララの父。独裁体制を倒すため、イデを手に入れようとしたが母星を失ない、種族の業をかけて戦う。
ギンドロ・ジンム
オーメ財団の総師。ドバとは竹馬の友でもあり、共通の目的ズオウ打倒のため、軍と手を結ぶ。
ジルバル・ドク
ジグ・マックを開発した人。シェリルたちを捕虜にして、イデオンを手に入れようとした。
マヤヤ・ラウ
どこまでもカララに従う、従順な待女。ソロシップの捕虜となり、ロッタに撃ち殺されてしまった。
ダミド・ペッチ
同僚ギジェとは、幼なじみでもある。出世欲が強く、ギジェをだしぬこうとしたが、力およばず戦死した。
ギジェ・ザラル
もともと貴族だったが、没落した家を出、武人として出世しようとした。ドバの目にとまり、カララの許婚にまでなったが、イデ捜索のつまづきで、出世の道を断たれた。イデの秘密にとりつかれ、ソロシップに乗る。

MECHANIC

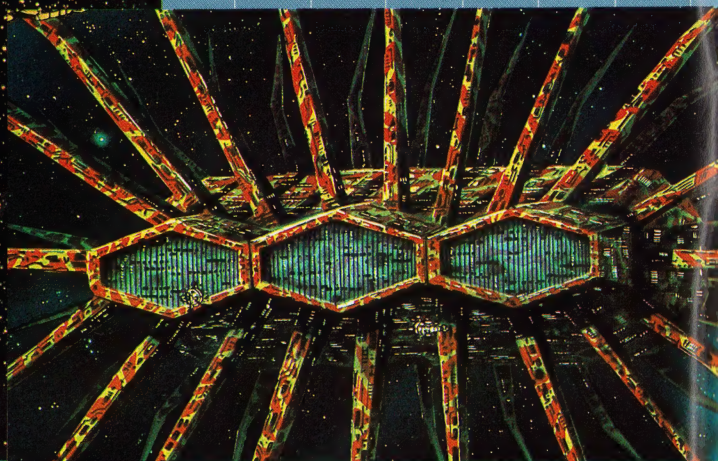
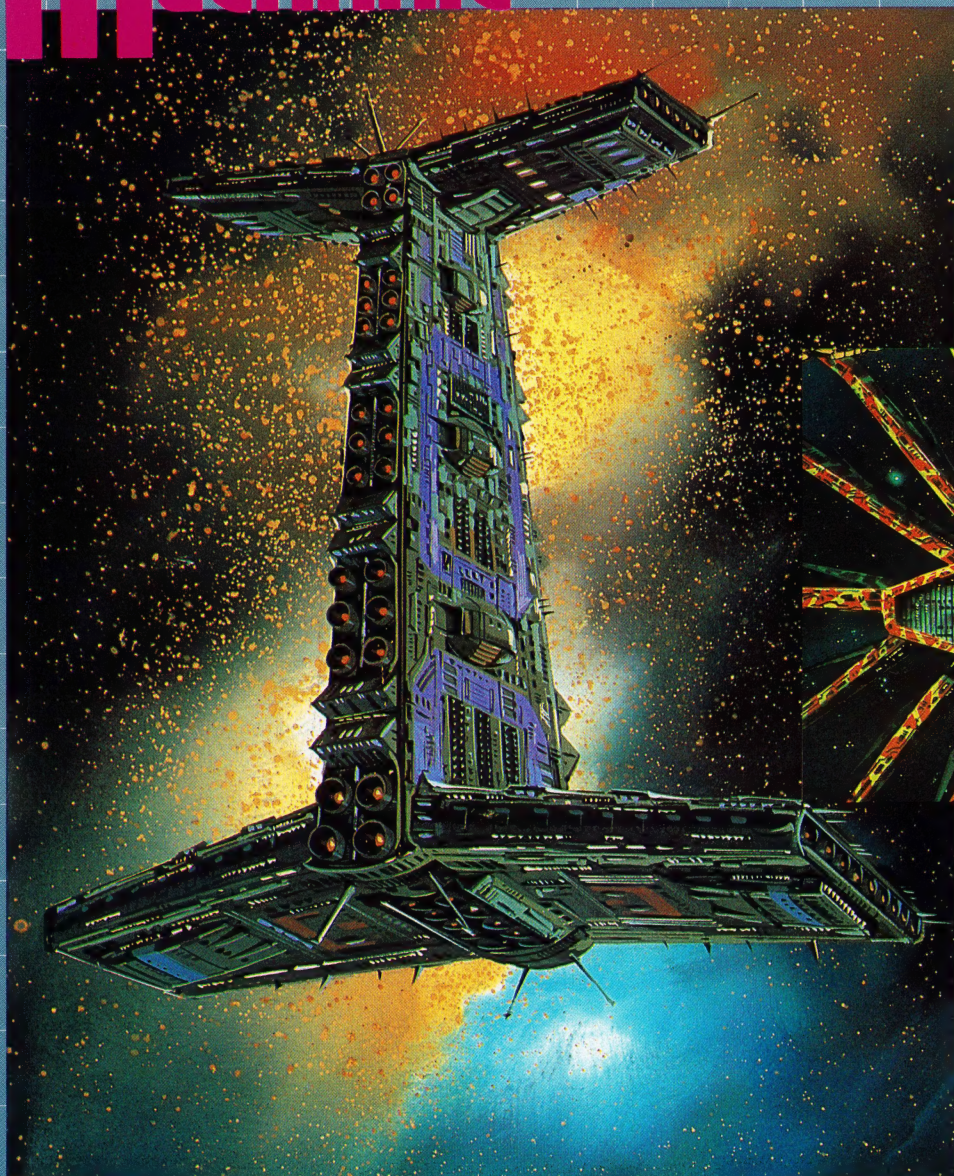
壮大な物語を
彩るメカニック

ソロ星を追われ、あてのない逃亡を続ける
ソロシップとイデオン。そして、彼らを執拗に
追うバッフ・クランの重機動メカと宇宙船

ソロシップ

地球人が、第六文明人と名づけたソロ星の先住民族が作った外宇宙船。バッフ・クランとの戦いから逃れたソロ星の人々が乗る。
反物質エンジンとノーマルエンジンを装備し、亜空間航行が可能。全長400メートル、全高83メートル、全幅262メートル、総重量49,000トン。武装は、地球人の取り付けたグレン・キャノンなど。

イデオン

ソロシップと同じく、第六文明人の手による巨大なロボット。発掘時は、３機が分離した形で発見された。イデオンという名称は、第六文明人の残した文字により判明した。コントロール・システム、グレン・キャノン、ミサイルなどが、発掘後に地球人の手によって取り付けられた。全長105メートル、重量5,650トン、イデオンソード、イデオンガンを持つ。

クラップ
地球の新型主力巡洋艦。艦隊の中堅となる。全長260メートル。武装は3連装ビーム砲7基。
カービアン・クロッサス
ノズルの噴出方向を変えることにより、VTOLとなる。武装が20ミリ機銃2門と貧弱なため、戦闘機としてよりも開発用に使用。
キャリオカ
ソロシップにも搭載されていた軽巡洋艦タイプの艦。全長135メートル。武装はミサイル・ランチャー6基など。
グラム・ザン
バッフ・クランの中型戦艦。ギジェのイデ調査隊が使用した。全長240メートル。重機動メカの搭載はできない。
ギル・バウ
バッフ・クランの大気圏内用攻撃機。機動性と武装に優れている。乗員2名。小型加粒子砲2門のほかハーケン2基を持つ。
ガタマン・ザン
重機動メカ戦を主に設計され、ドグ・マック、ギラン・ドウなどを搭載する。全長303メートル、武装は加粒子砲、ミサイルなど。
サデス・ザン
重機動メカの格納庫、発進ポートを持つ新型戦艦。全長320メートル。武装は加粒子砲多数。
コポラ
バッフ・クランの偵察機で、地上歩行偵察メカガタッカを2機搭載している。20ミリ機銃×2。
バッフ・クランのオーメ財団の戦艦。ガンガ・ルブを2機搭載。全長319メートル。
デロ・ザン
宇宙空間、大気圏内両用の重戦闘機で、3連装アンカーを2基上下に備えているほか、加粒子砲などを持つ。
ゴンド・バウ

MECHANIC

バイラル・ジン

バッフ・クラン内でも極秘のうちに建造された超巨大戦艦で、ドバ・アジバ総司令が乗る旗艦である。その全長は十数キロにもおよび、全身くまなく加粒子砲、ミサイルなどで武装されている。イデによって瞬間移動させられたカララが、ドバと再会した艦である。

ガンドロワ

超新星の爆発エネルギーを蓄積、放出する超兵器で、計画当初は平和利用を目的に開発される予定であったが、ズオウ大帝を退けようとするドバの野望により、兵器として誕生してしまった。全長540キロ、全高350キロ、全幅500キロという巨大なもので、その破壊エネルギーは、40パーセントの放出で惑星を消滅させる。

ザンザ・ルブ

ガンガ・ルブより発展した新型重機動メカで、ハルルがキラルル、トロロフと乗りこんだ。

ガンガ・ルブ

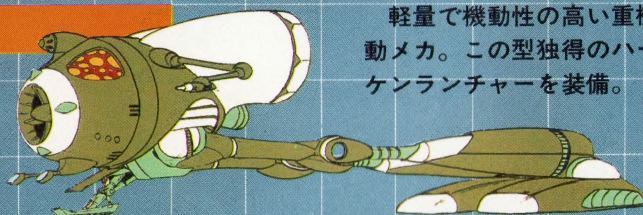
イデオンより巨大な重機動メカ。右腕に戦闘用クロー、左腕にランチャーを装備。全長128メートル。

ジョング

小型の白兵戦用機動メカで、乗員は2名。ソロシップ内に突入する。

ジグ・マック

通常空間、亜空間ともに行動できる重機動メカで、戦闘用クロー、大型速射加粒子砲などで武装している。全長99メートル。

アディゴ

軽量で機動性の高い重機動メカ。この型独得のハーケンランチャーを装備。

A PART

人類の足跡は、銀河系はもとより遙かアンドロメダにもしるされた。時は未来——人々は、地球から多くの星々に移り住み、なおその拡大は続いていた。
そうした移民星のひとつに、アンドロメダ星雲に開拓されつつあるソロ星があった。緑なす大地・青く澄んだ大気——それらは、故郷地球に似て、人々を暖かく迎えてくれたかに見えた。しかし、科学者たちが、地中より発見した前文明の遺跡が、ソロ星を、そして宇宙を震撼させようとしていた……。

A CONTACT
接触篇

STORY DIGEST A1

地球の植民地ソロ星の地中深くにそれは眠っていた。ふたつの種族の戦いの火の手が空をこがすまで…

ソロ星衛星軌道を今、地球のものとはまったく違った宇宙船が周回していた。その宇宙船のデッキのひとつが開くと、小型機がソロ星大気圏へと降下していった。それは、バッフ・クランと自らを呼ぶ異星人のものであった。

小型機は、バッフ・クランの軍総司令を勤めるドバ・アジバの娘、カララの乗機であった。指揮官のギジェは、ただちに部下にカララを追わせた。しかし、カララをつれ戻しに後を追った2機が、地球人の軍用車に攻撃を浴びせた。これが、事件の発端であった。

戦いは、ソロ星の遺跡発掘現場に、唯一の都市ニューロピアに広がった。その中で、発掘責任者ユウキ博士の息子コスモ、友人のデク、カーシャ、科学者のシェリル、士官候補生のベスたちは、遺跡の中の3台の機械が、信じられない動きをするのを知った。彼らの乗った3台は、自ら変形しひとつになり、巨大なロボットの姿となった。

バッフ・クランは、彼らの星に伝わる無限の力――イデの存在を、この巨大な姿に感じた。しかし、なお戦いは激化していく。ニューロピアは炎上し、人々は先を争って第2発掘現場に逃れた。その中には、ソロ星に降下したバッフ・クラン――カララと従者のマヤヤの姿があった。その時、遺跡であったはずの宇宙船が、巨大ロボットを乗せ、反物質エンジンのうなりを響かせながら上昇を開始した。

地球人とバッフ・クランは、イデオンの眠るソロ星で遭遇し、闘いを始めてしまった。

オ、オ、オ……イデオンが吠える。

コスモの自己防衛本能が、イデオンを目覚めさせた。３つのメカが合体し、赤い巨神が起ち上がる！

ダミド率いる、ギル・バウ隊のハーケン攻撃も、イデオンにはきかなかった。

大地を割り、ソロシップが舞い上がる。

STORY DIGEST A2

ロッタの銃弾がカララに集中する憎しみをこめて……

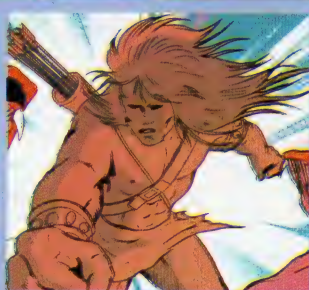
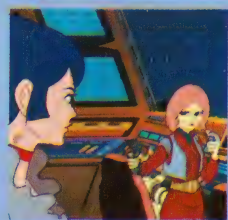
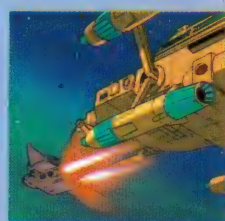
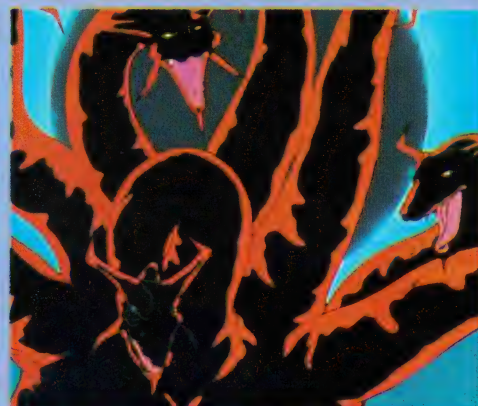
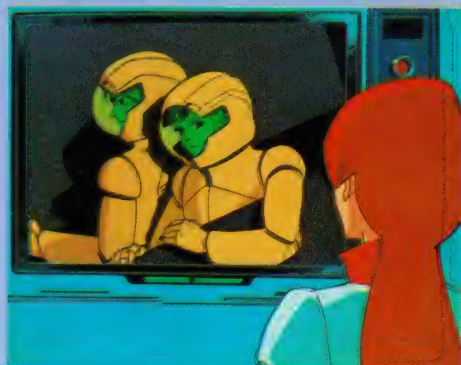
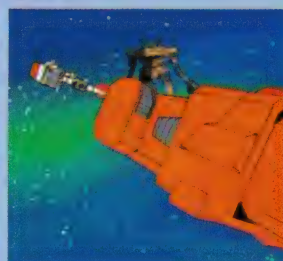
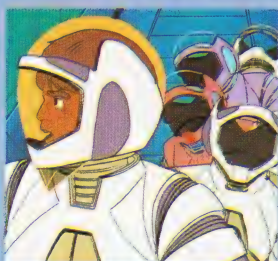
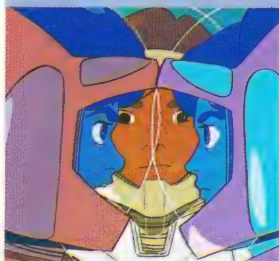
巨大なロボットは、ソロ星の遺跡にあった文字からイデオンと呼ばれていたことがわかった。そして、宇宙船は誰言うとなくソロシップと名づけられた。そして今、ソロシップは、亜空間飛行——デスドライブに入った。

カララは、ソロシップへ乗船して間もなく、移民者リストに記載されていないことが判り、その正体を知られてしまった。また、マヤヤは、尋問のため船倉から連れ出される時、両親をバッフ・クランの攻撃で失ったロッタのために射殺された。カララは、なお銃をむけるロッタの前に立った。震える指で、ロッタは引き金を引く。空気を裂いて弾丸がカララをかすめ、数発が後方に飛び去った。やがて、銃声は絶え、ロッタの嗚咽が長く尾を引いて響いた。

やがて、カララの存在は、ソロシップの中で大きくなっていった。カララの語った伝説——イデの実を食べ、女王を助ける英雄の話は、シェリルのイデの研究にも貢献した。イデは、ソロ星に住んでいた〝第六文明人〟と地球人が呼ぶ人々が、その意志と知能を集積してエネルギー化したものらしい、とシェリルは仮説を立てていた。

一方、死んだマヤヤがソロシップに残した生体発振器は、バッフ・クランの新手、カララの姉ハルルを呼びよせていた。そうとも知らず、シェリルは、地球のコンピューターによるイデ分析を果たそうと、カララを人質に軽巡洋艦キャリオカでソロシップを脱出した。

キャリオカに迫るハルルの部隊は、カララの存在を無視して逆に人質としてキャリオカを捕獲、イデオンとの交換を迫った。コスモは、イデオンを3機に分離し、人質解放と同時に合体させた。そして、イデオ・バスタから、イデオノバへ突入したのだ。乗りこんできたバッフ兵を倒し、イデオンはコスモの手に帰った。バッフ・クランの作戦指揮官ジルバル・ドクは、その威力の前に乗機もろとも消滅した。

ソロシップ内には、異星人に対する憎しみがうずまいていた。ロッタの銃がカララを狙うが……。

カララは、バッフ・クランに伝わるイデの英雄伝説を語る。

シェリルはカララを人質にとった。

人質のかたにイデオンを引き渡すが、コスモの機転で奪回する。

ドクのジグ・マックもイデオンに倒された。

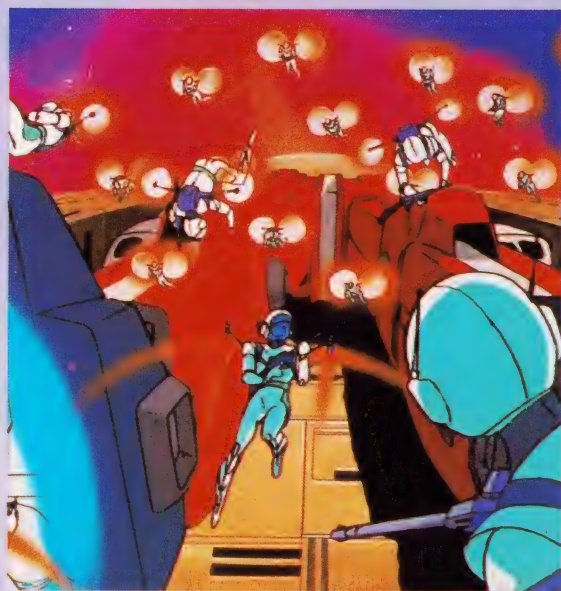
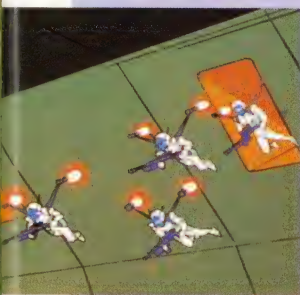
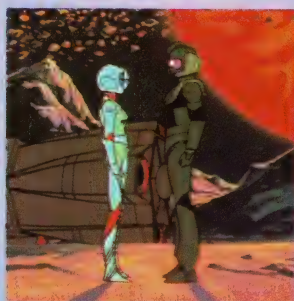
STORY DIGEST A3

コスモの苦しい眠りの中へ〝イデ〟は現れた――それは何を語ろうというのか!?

ソロシップへ帰ったカララは、脱走の責任は、すべて自分にあると証言して、シェリルたちをかばった。そんなカララに、ベスはバッフ・クランの地球の位置を示してくれるように頼んだ。さまざまの人の意志と苦悩を乗せて、ソロシップは、亜空間を進み続ける。

その時、ソロシップの至近距離に、ハルルの乗るドロワ・ザンが接近した。ソロシップのパワーが起こす時空の歪みが、二隻の船を接近させたのだ。突然の敵出現に、ソロシップ側も臨戦体勢に入った。ハルルもまた、ソロシップ攻撃の命令を下す。そこへ、ソロ星のギジェを救出したダラム・ズバが、通信を送ってきた。それは、ソロシップのブリッジでもキャッチされた。

カララは、ベスの頼みに従ってそれを翻訳した。ダラムがハルル援護にむかっているというのだ。二隻は、ほぼ同時に、触れあうような位置に出現した。戦いは、白兵戦となった。ソロシップ内にもバッフ兵が突入してくる。その乱戦の中で、イデオンはドロワ・ザンをたたいた。ドロワ・ザンは、一瞬の内に爆発し、ハルルはかろうじて脱出した。そこへ、ダラムの率いる新手がイデオンに集中砲火を浴びせかける。ダラムは、一撃を加えただけで、戦場から離脱した。しかし、コスモは、輸血を受けるほどの傷を負ってしまった。そして、その苦しいまどろみの中で、コスモはイデと対話したのだ。

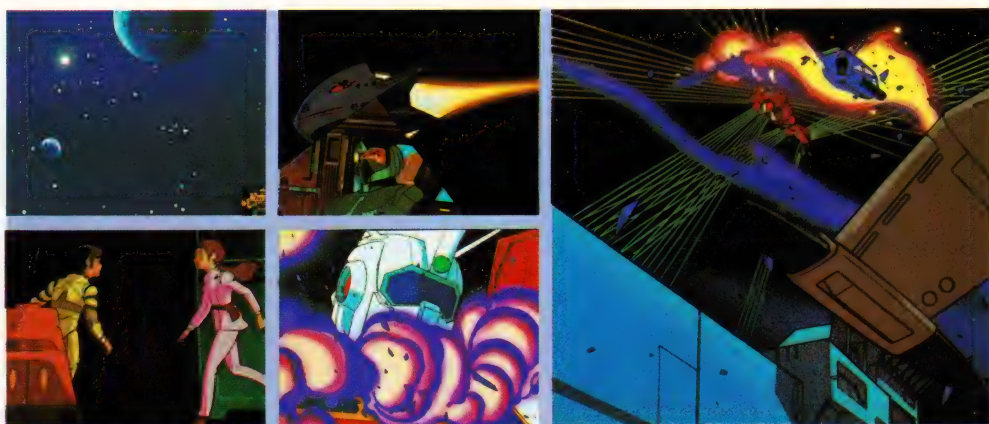
カララのおかげで、ソロシップ内の和は保たれた。
ハルルが乗るドロワ・ザンは、イデに引き寄せられてソロシップの隣に出現する。
ハルルの救援にかけつけたダラムのガンガ・ルブとの戦いで、コスモは負傷してしまった。
ハルルとダラムは、かっての恋人同志だった。

STORY DIGEST A 4

輝くイデオンソード 惑星すら断つ力は〝イデ〟の発現か!?

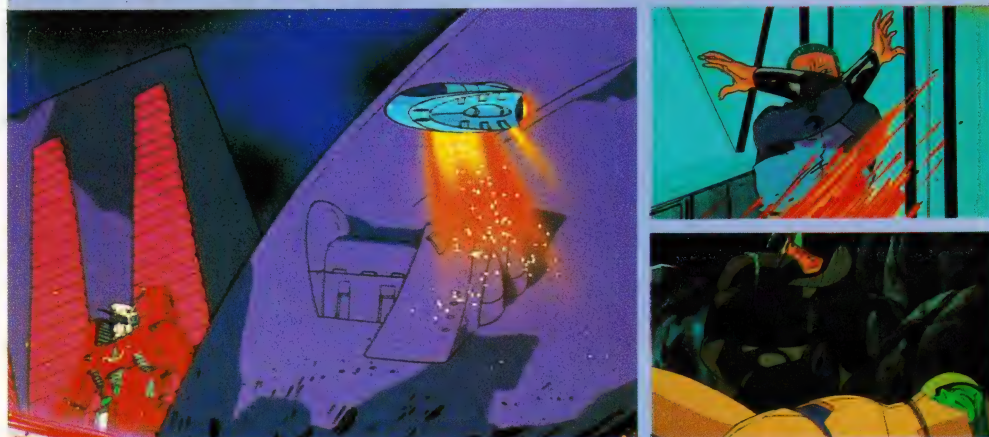
ハルルは、ダラムと交替する形で後方の父ドバのもとへ去った。昔、ハルルが想いをかけ、その求愛を断わった男ダラムとの再会は、ハルルの心に重いしこりを残した。

ソロシップは、月面のムーンランドにあった。地球は、バッフ・クランの攻撃を恐れ、ソロシップを近づけようとせず、ただムーンランドでの補給のみを許したのだ。そのソロシップに、ダラムとギジェの一隊が近づきつつあった。敵の頭悩に直接攻撃をかけるゲル結界を持つバルメ・ザン、ブラム・ザンの二隻が主力である。

月面は、その前衛の攻撃を受け、すでに混乱の極に達していた。その中でシェリルとジョリバは、ムーンランドのコンピューター技師コルボックとともに、軍用コンピューター、グロリアを操作していた。イデの力を見極め、コントロールする方法を捜そうというのだ。戦いは激化する。コスモは、戦闘中に、イデオンに乗っていたルウたちを発見した。そこへ、ゲル結界を張ったバルメ・ザンとブラム・ザンが接近する。イデオンの中のコスモたちは、激しい頭痛に苦しんだ。無断で乗り込んだルウやアーシュラたちも、その例外ではなかった。火のついたように、ルウが泣く。その時、イデオンのゲージが、すさまじい輝きを見せ、両腕からビームがほとばしった。それは、イデオンの両脇にあったバルメ・ザンとブラム・ザンを断ち切り、なおも輝く。

ギジェは、かろうじて脱出すると月面に降り立った。そして、そこに倒れていたシェリルを発見したのだ。すでに、味方の軍に見すてられたギジェは、イデを追求するために、ソロシップに乗りこもうと決心していた。

危機は去ったものの、ソロシップにも犠牲者が出た。看護婦のラポーが想いを寄せるモエラが、イデオノバの中に散った。今、悲しみの心と、敵であったギジェを乗せ、無限力ーイデのパワーを秘めてソロシップは飛び立った。

ソロシップは月に来ていた。そんな時ルウたちはイデオンにもぐり込んだ。

シェリルはイデの秘密をコンピューターではじき出そうとする。

頭悩を圧迫するゲル結界!泣き叫ぶルウに反応して、イデオンソードが出現する!

ソロシップは故郷の星を後にした……

Original Art Space

人と人の叫びが宇宙にこだまし、苦悩が闇を切り裂いて光を呼ぶ、善き魂の生まれるきざしも、戦いに疲れた悲しい魂の終焉 をもすべて包んで。

drawing by TOMONORI KOGAWA

船は逃亡の旅を続け、幾度となく危地に陥る。4本のノズルは吠吼し、なお生への道をさぐる。だが、さらに増え

る敵の群は、巨大な傷ついた獣を追って突進し、人は再び炎を見る。やがて来るやすらぎを、誰もが心の底から信じることができなくなるほどに——長い長い旅。

drawing by HIROSHI ONISHI

Original Art Space

炎と光の中で、戦い続けてきた巨人が消える——新しく誕生する生命たちは、彼のことを記憶し、語り伝えていくのだろうか!?

drawing by YUICHI HIGUCHI

WHAT'S IDE?!

イデ?!

『伝説巨神イデオン』の本来の主人公は〝イデ〟という無限の力を持つ存在である。それは、ソロ星の地下深く、何かを待ち続けていた。そして、人類とバッフ・クランの接触によって〝イデ〟は目覚めた。〝イデ〟の意志とは何だったのか!? また〝イデ〟という存在は、どのようにして生まれ出たのか……!?

バッフ・クランの伝説の中に語りつがれてきた〝イデ〟の謎は、数億年という時間の果てに解きあかされようとしている。

chart1 第6文明人 THE 6th MAN

イデオナイトのシステム

精神エネルギー

集積

物質X

外部に必要量を放出

物質エネルギーに転化

イデオナイト

数億の意志の集合体

遠い過去の宇宙では、第6文明人（地球人が6番目に遭遇した知的異星人）が繁栄していた。高度な科学文明を持つ彼らは、精神エネルギーの利用を考えていた。精神エネルギーを物質エネルギーに転化する金属・イデオナイトを開発し、それをとり入れた巨大な乗物　イデオンとソロシップを建造したのである。

しかし、このシステムの力は、第6文明人の想像を越えるものだった。実験的にはコントロールできたが、数億に及ぶ第6文明人の意志を結集した時、爆発的に始動してしまったのである。

精神エネルギーによる「意志の場」を作ることにとどまらず、第6文明人すべての意志を吸収しつくしたのだ。こうして誕生したのが〝イデ〟である。〝イデ〟ができた時、〝イデ〟本体は自身のパワーを知らなかったために、第6文明人を滅ぼしてしまったともいえる。

そして〝イデ〟と、それにともなうイデオン、ソロシップだけが残った。イデオンが全高100メートル以上というスケールなのは、第6文明人の体格が人間の2、3倍だったからと考えられる。第6文明人は、精神的にも肉体的にも〝巨人〟だったのだ。

第6文明人の滅亡は、地球人とバッフ・クランの創造につながった。〝イデ〟は第6文明人の残滓である有機体を、双方の惑星に埋め込んだのだ。それが人類に進化するためには、億単位の歳月が必要だった。その間〝イデ〟はソロ星の地底で、自分を正しく使用してくれる人類を待っていたのである。このため、地球本星とバッフ・クラン本星は、ソロ星を中心にほぼ等位置にあるわけだ。

chart2 イデ伝説 REGEND

バッフ・クランの英雄譚

――むかし、バッフ星は女王によって平和に治められていた。ところが、9つの頭を持つ邪悪な怪獣が現われ、星は次第に荒廃してゆき、バッフ族は食べる物もなくやせ細っていった。女王の恋人（たくましい若者）が怪獣に立ちむかったが、かなうはずもなく、ただくやし涙を流すだけだった。そんな青年の目の前に、天から〝イデ〟の果実が降ってきた。〝イデ〟を食べた青年は、不思議な力を得て、再び怪獣に立ちむかった。怪獣は倒され、バッフ星には緑が甦った。青年＝英雄は、助けた女王と一緒に、平和に暮らしたという。

だが、英雄が怪獣を倒せなかった時には、怪獣ともども英雄も、星のひとつになってしまう……。

〝イデ〟は善き力によって目覚める。人と人との和を求めるなら〝イデ〟は善き力を示しそうでなければ人を滅ぼす――。

これが、バッフ・クランに伝わる〝イデ〟伝説の概要である。同様の「英雄伝説」は、地球にも残っているし、〝イデア（理念）〟としての音声もあるのだ。第6文明人という共通する遠い過去の記憶が、両星の民族ともに脈々と生き続けていたのである。

chart3 接触 A CONTACT

〝イデ〟のメッセージ

地球とバッフ・クランが〝イデ〟を使えるほどに進化した時、〝イデ〟は両惑星に流星を放った。つまり、人間たちの注意を引くメッセージである。地球人は移民と研究のためソロ星へやってきて、眠っていたイデオンとソロシップを発掘した。そして、バッフ・クランも〝イデ〟を求めて訪れた。〝イデ〟は、善き心で自分を使ってほしかったのだ。

だが、地球人とバッフ・クランは〝イデ〟の目前で戦闘を始めてしまった。偶然とはいえ烽火が上がり、戦争はまたたく間に拡大していった。肉親を殺され、友を傷つけられた両民族の間に、憎しみが生まれる。――〝イデ〟にとっても予期せぬ出来事であった。憎しみは善き心を生まず〝イデ〟の善き使い方ができなくなる。この人間たちでは駄目なのだ、新たなる人類を再生させねばと〝イデ〟は判断した。だが、完全に滅亡させることは〝イデ〟にとっても避けたいことでできれば両民族を和解させ、善き道を創りたかったのだ。そのための可能性はあったのである。それは、パイパー・ルウを代表とする、純粋な子どもたちの存在だった。また、コスモたちの「生き残りたい」という自己防衛本能も〝イデ〟が判断する善き心に近いものだった。

WHAT

イ

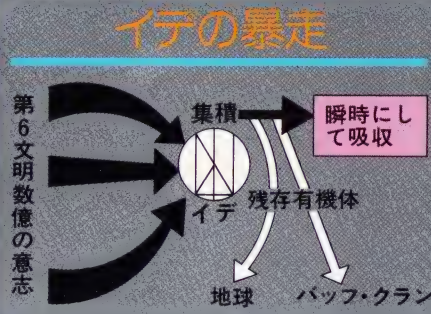
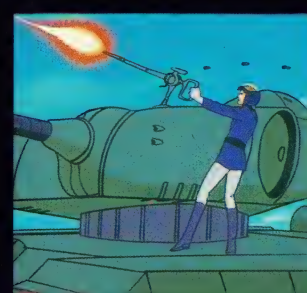



IMAGE SONG

セーリング・フライ

井荻　麟・作詞
すぎやまこういち・作・編曲
水原明子・歌

あこがれだけに　まどわされたり
つらさのがれの　逃げ道にして
行ってはいけない　メフィストのくに
ばら色の唇が　君をまよわせて
flying now flying now
なにも思わず　心ふさいで
生まれでる　君ならば

忍び恋のように
スペース・ランナウェイ　スペース・ランナウェイ
月と星の間(なか)を　スペース・ランナウェイ
セーリング・フライ
※くりかえし
セーリング・フライ　セーリング・フライ
セーリング・フライ　セーリング・フライ
セーリング・フライ　セーリング・フライ

どうして人は　生きてゆくのか
死にゆくためと　あきらめきれず
狩人のように　宇宙(そら)かけぬける
ばら色の唇が　傷口をなめて
flying now flying now
のびやかな手が躰うけとめ
さそうなら　とんでみる

忍び恋のように
スペース・ランナウェイ　スペース・ランナウェイ
数えきれぬ星よ　スペース・ランナウェイ
セーリング・フライ
※くりかえし
セーリング・フライ　セーリング・フライ
セーリング・フライ　セーリング・フライ
セーリング・フライ　セーリング・フライ
セーリング・フライ　セーリング・フライ

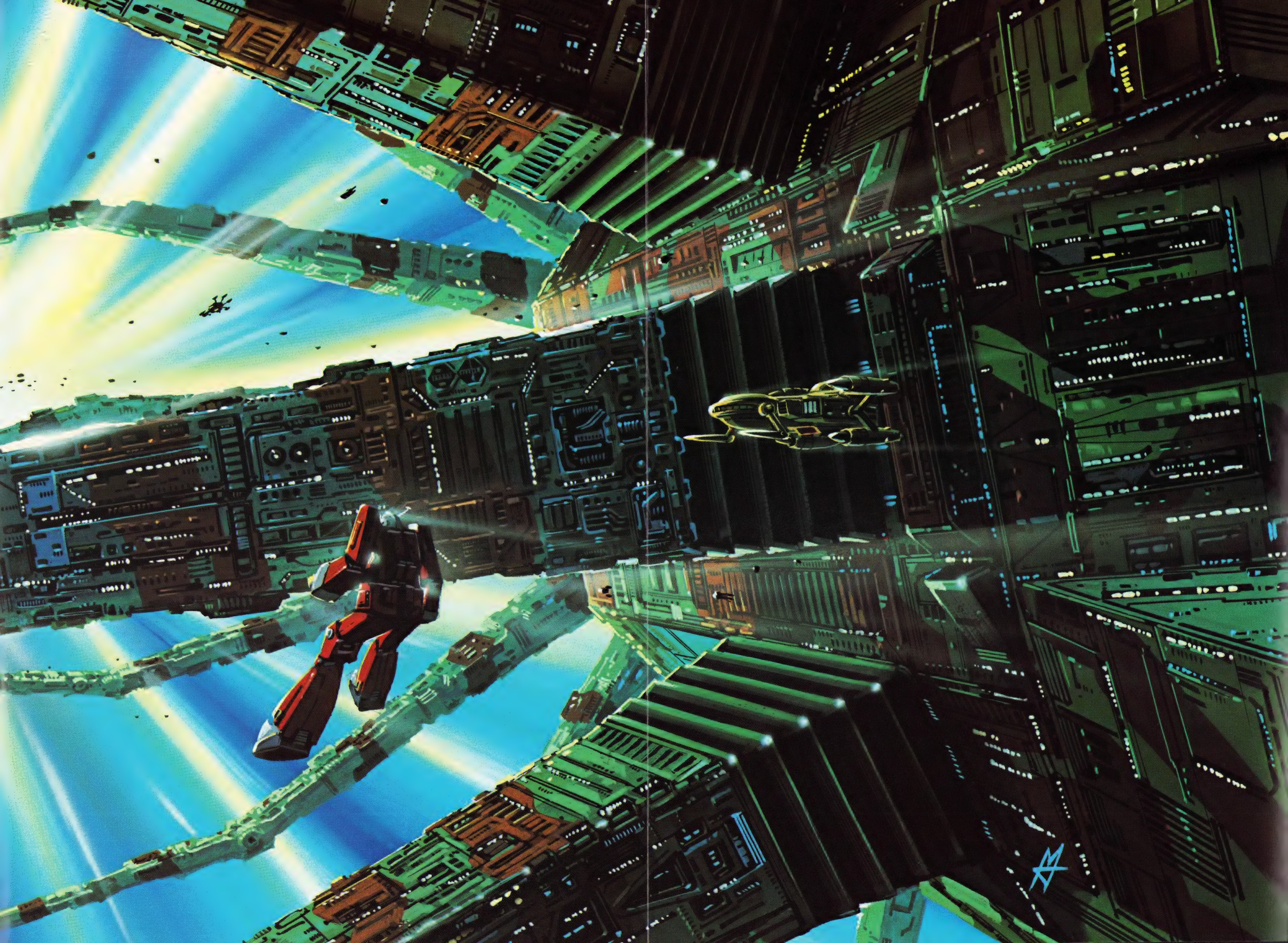



chart4 復活のイデオン A REVIVE

大地に起つ巨神

地球人たちがソロ星の地中から発掘したのは、赤い3つのメカと、反物質エンジンを備えた不思議な遺跡だった。赤いメカは、科学庁長官の息子ユウキ・コスモら少年少女が乗らないと動かないことを発見した。これは、〝イデ〞が大人たちの心には反応しなかったことを示している。しかし、この段階では、メカが何を意味するのか、どんな力を持つのかはまったく判らなかった。

それが本格的に始動したのは、バッフ・クランの攻撃で、コスモたちが死地におちいった時である。打算を含まない自己防衛本能が〝イデ〞を呼びさまし、3つのメカは合体してイデオンとなったのである。

イデオンは元来戦闘用に作られたものではない。第6文明人にとっては、力に対する願望を形に現わした、一種のシンボルだったのだろう。3つのメカに分けたのは、第6文明人の意識的作意（たとえば、地球でいう知・力・心のような）であったと考えられる。

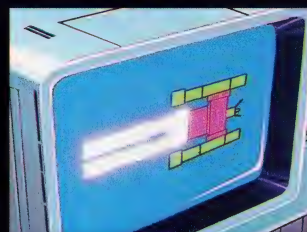
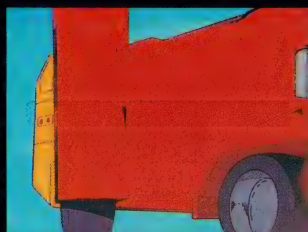
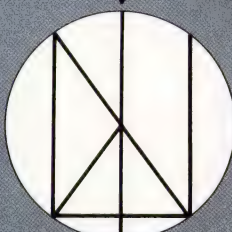
WHAT'S IDE?! イデ?!

イデオン及びソロシップのコントロールは、操縦者以外によっても成される。これは〝イデ〞が自ら制御しているためだ。イデオンに続いて地中深く埋まっていたソロシップが復活して宇宙に飛び立ったのも〝イデ〞の判断によるためだ。

chart5 発現 EXPRESSION

防衛本能に連動

〝イデ〞が判断する善き心に近い子どもたちの純粋な自己防衛本能に連動して、〝イデ〞は自らの力の一部を発現する。子どもたちは「守るべき」存在なのだ。

発現には、さまざまな形がある。ある時はイデオンやソロシップを守るバリアーとなり、また、パワーアップしたりする。ルウ、アーシュラ、ファードがイデオンに乗り込み、ギジェのゲル結果攻撃で苦しんだ時には、両腕から突然、光の剣――イデオンソードが伸びて、ピンチを脱した。

純粋な自己防衛本能は、子どもたちだけが持つわけではない。ステッキンスターでのギジェの意志にも連動している。つまり、広範囲の生命体との連動が可能なのである。

これらの発現の理由には〝イデ〞本体の防衛も含まれている。〝イデ〞も自己を外敵から守りたいのだ。無限の力を持つとはいえ、存在を脅かすものに対抗するのは〝イデ〞でも人間も変わらない。また、〝イデ〞の判断で発現し、たとえばハルルの乗るドロワ・ザンをソロシップに引き寄せたりもする。これらはすべて、最終的な発動へ向けてのステップともいえるのだ。

chart6 試み make a TRIAL

戦争に介入

ベスとカララの間に愛が生まれ、それはやがて新しい生命の誕生に結びついた。〝イデ〞の場の中で生まれた子――メシアは、ルウよりもさらに純粋な、より〝イデ〞に近い存在だった。メシアを媒介に、地球とバッフ・クランの和解を望んだ〝イデ〞は、カララを父親ドバのもとにテレポーテーションさせた。

このことは〝イデ〞にとっても大きな賭けだった。もし対面によって善き道が切り開ければ、人間たちすべてを絶滅させることもなくなるからである。

だが、この試みは失敗に終わった。戦いをさけられない人間の業のためか、それとも一度流されてしまったら止められない弱さのためか……。それでもなお〝イデ〞にとってメシアは重要な存在だった。なぜならば、メシアは次なる再生のためには、どうしても必要だったのである。

chart7 発動 BE INVOKED

文明の滅亡

〝イデ〞は再び流星を打ち出した。地球とバッフ・クラン――双方の民族を掃討するために。コスモたちも、ドバたちも、帰る場所を完全に失なってしまった。どちらも、〝イデ〞の力をコントロールするためには、カララの理想とするように、和解することが必要だとは感づいていた。だが、人の業は戦いをやめさせようとはしなかった。ソロシップはカララを、カーシャを、仲間たちを次々と失ない、バッフ・クランもイデオンに殲滅されていった。そして――〝イデ〞はついに発動した。

ガンドロワのスパークはコスモを含めた敵味方すべてを包んだが、同時にイデオンソードの最後の輝きがガンドロワを切り裂いた。こうして、この宇宙から知的生命体が消滅したのである。これは、単に悪しき人間たちを殺すためのものではなかった。善き形での人類の再生のための、最終的なプロセスだったのだ。

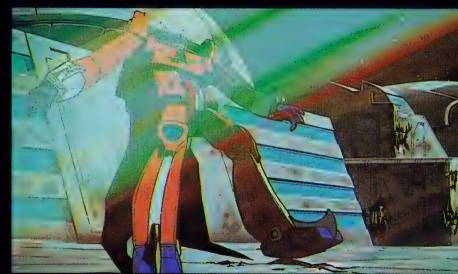



chart8 因果地平 UNKNOWN SPACE

新たなる〝生〞

地球、バッフ・クランの全人類の意志は、今やとある宇宙に集結しつつあった。ギジェとシェリルが、ダラムとハルルが宙をゆく。最後まで目覚めなかったコスモの魂も、カーシャとキッチンの暖かな誘いで翔びたった。そして、全人類の意志は、メシアに導かれて新たなる惑星へと旅立っていった……。

〝イデ〞は歴史をくり返そうとしているのだ。両星の人類を融合させた意志は、やがて原生生物から複雑な構造を持つ生物へ、さらに哺乳類へ、人類へと進化していくだろう。そのためには数億年はかかるだろうが、次こそは善き形の人類に再生してくれるだろうと〝イデ〞は信じていたのだ。こうして、空間と時間と共に〝イデ〞は生き続けるのである。

Original Art Space

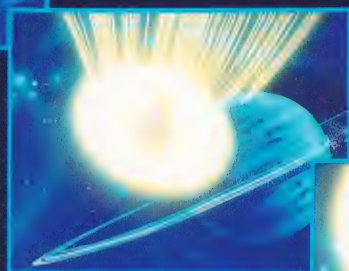
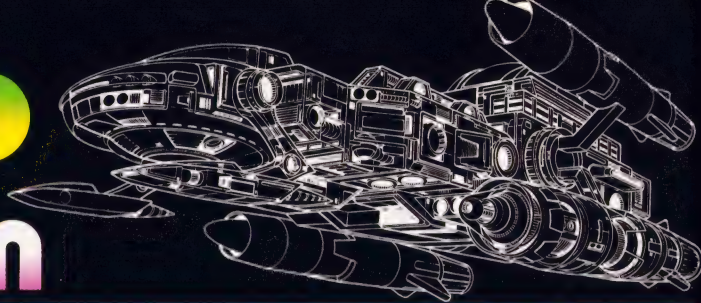
大地はひと時ふるえ、船は天(そら)へ昇る。これより先は闇の世界、これより先は戦いが待つ。それでも上昇する船の中で、人々は闇を見すえる。

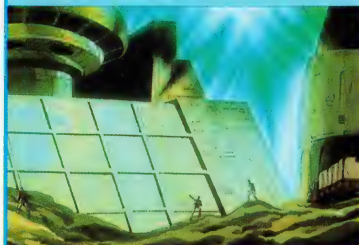
drawing by MITSUKI NAKAMURA

BECOME A NEW SPACE

AND BIRTH OF A NEW SPACE REGEND

永遠ともいえる長い時間の果てに、宇宙は光り輝く。生命が生命を生み、風や陽や空がそれを育み、やがて風や陽や空の正体を極める知性が生まれる。彼らはふたつの大地の上に育ち、ふたつの大地から翔び立った。時間と空間を超えて、ふたつの生命体は一点に集まる。巨大な流星と不思議な伝説に導かれて……。
やがて、ひとつの星から炎が上がる。それは、文明と文明、生命と生命の戦いとなり、四方へ広がっていった。生命が生命を滅ぼすことが、彼らの故郷に破壊をもたらし、なお彼らをも未知の地平線の果てへと導いていった。
その戦いは、今、宇宙の片すみで、最後を迎えようとしていた。ふたつの生命体が、自分たちの業に気づいた時には、彼らを見つめていた意志の力が解放されていた。光は、すべてを押し包み、すべてを未知の事象の果てに押し流した。彼らの遠い先祖が、それぞれの海に生まれてから、永遠ともいえる長い時間の果て——今、宇宙は光り輝いた。
そして、小さな光となった彼らは、再び小さな星へと降り注ぐ。それは、やがて生命となり、次に続く生命を生み、風や陽や空に育まれ……ビッグバンから流れはじめた時の流れの中で、ほんの少しだけ違った歴史を作る。

生まれかわる

SOLO SHIP SPACE NAVIGATION

1 ソロ星第1発掘現場

イデオンとなる3台のメカの発掘現場も、バッフ・クランの攻撃にさらされた。避難場所として、コスモたちは、3台のメカに乗る。その時、メカのゲージが輝き、3台はひとつになった。イデオンの復活!!

2 ソロ星第2発掘現場

ソロ星の人々は、炎上するニューロピアを後に、第2発掘現場の宇宙船へ避難した。戦いはますます激しくなる。

3 DS(デス)ドライブ

それまで、地中に眠っていたソロシップが飛び立つ。そして、亜空間を貫いてデスドライブに入った。

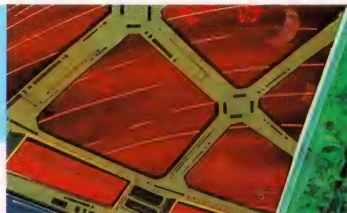
4 イデオン奪回作戦

脱出したシェリルたちを人質に、ドクは、イデオンを要求。コスモは、空の宇宙服をパイロットに見せかけ、イデオン内部にひそむ。そしてメインコントロールを再び手に入れた。

5 対ドロワ・ザン戦

ソロシップの起こす空間の歪みが、ハルルのドロワ・ザンを接近させた。

6 ギジェ、ソロシップへ

ムーンランドで“イデ”のデータを調査したシェリルは、バッフ・クランの攻撃の中で倒れた。それを救ったのは、ギジェであった。

7 キャラル星の悲劇

ソロシップが立ち寄ったキャラルで、コスモはキッチンと知りあった。しかし、コスモが淡い想いをよせた彼女も、戦いの中に消えていった。

8 ステッキンスター

巨大な粘着性のある葉がしげるステッキンスターで、ギジェは“イデ”の輝きを見て死んだ。

9 父、そして娘

“イデ”は、カララとドバを再会させた。和平への最後のチャンスであった。だが、ドバは、カララに対して剣をぬき、その機会はついえてしまった。なお、戦いは続く!!

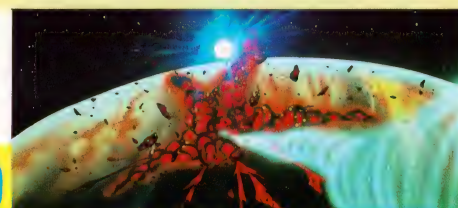
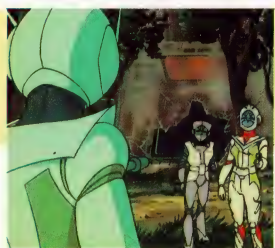
10 彗星接近

ソロシップは、彗星の進路上に誘いこまれた。その時、シェリルがルウをつれ、“イデ”と対話しようと甲板に現れた。

11 姉妹─ハルルとカララ

ハルルは、ソロシップ内に侵入、妹のカララと出会った。カララめがけて、ハルルのビームが伸び、カララのサンバイザーが砕ける。

12 対バイラルジン

すでに故郷を失ったふたつの種族は、なおも激しい戦いを続ける。

13 ガンドロワ─最後の戦い

“イデ”の示す光点へ、イデオンとソロシップは翔ぶ。巨大なガンドロワを背景に、最後の戦いが展開する。

そして、“イデ”はその力を現した…!!

星々は暗黒にちりばめられ、静かに時の流れの中にたゆとう。その静寂をついて、ソロシップがゆく。すでに故郷は還るべき土地ではなく、目的地すら見失った悲しい逃亡の旅でしかない。
イデは、彼らを、そしてふたつの地球に住む人々に何を望むのか？無限の力の発動は、何を滅ぼし何を生むのか——答は闇の彼方に溶けこみ、心には冷たい恐怖が生まれた。イデは、もはや人知の外にあった。

STORY DIGEST B1

示された"イデ"の意志は、カララとドバを再会させた。しかし、人と人はなおも戦いを終わらせようとはしない

ソロシップは、果てしない逃亡を続けた。そして、バッフ・クランは、執拗にソロシップを追った。戦いは、地球植民星キャラルで、コスモが淡い想いをよせたキッチンを、シェリルの愛したギジェを倒し、なおも続いていた。

そんな時、ソロシップからカララとジョリバのふたりが消えた。イデの意志であった。ふたりは、和平への最後のチャンスとして、ドバ総司令のもとへ移動させられたのだ。しかし、ドバは、すでにベスの子を宿しているカララに、怒りをあらわにするだけであった。一方、ソロシップは、イデの示したカララたちの位置へ急いだ。コスモたちは、イデオンを駆って救出にむかう。だが、その目の前で、ふたりの乗る小型艇は、追撃のビームに貫かれた。「なぜ戦う！　なぜ殺す!!」

コスモは叫ぶ。それは、ほんの小さな存在の、大きな生への叫びであった。イデは、ふたりを守った。カララの腹部からの光が、バリアーとなって、ジョリバをも包んでいたのだ。

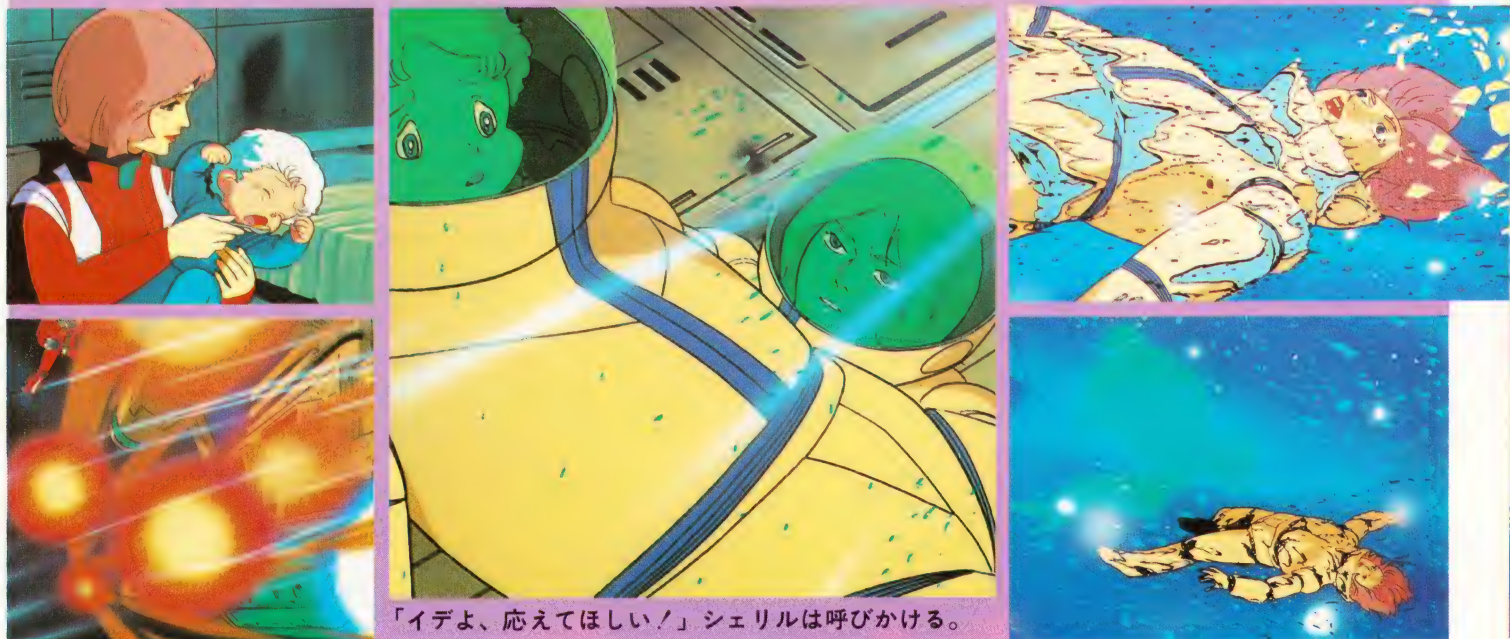
ドバは、接近する彗星の核へ、ソロシップを誘いこみ激突させようと考えた。ソロシップを誘導するために、重機動メカが攻撃を繰り返す。彗星に気づいたコスモは、破損したハッチを破り、イデオンガンをむけた。その時、イデオンの前に、ルウを抱いたシェリルが現れた。イデと対話する——それは、シェリルの最後の望みであった。

果てしない逃亡の中で、コスモは愛する少女キッチンを失った。ギジェもまた、シェリルを残して死んでいった。

イデはカララとジョリバをテレポートさせた。

「なぜ闘う！イデが開放したらどうなるか誰も判ってないんだ!!」

ドバはカララの説得も聞かず、戦いをやめようとしない。

カララとジョリバは、イデのバリアーで死地を逃れた。

「イデよ、応えてほしい！」シェリルは呼びかける。

STORY DIGEST B2

ソロシップ内は血と硝煙の匂いに満ちて……！

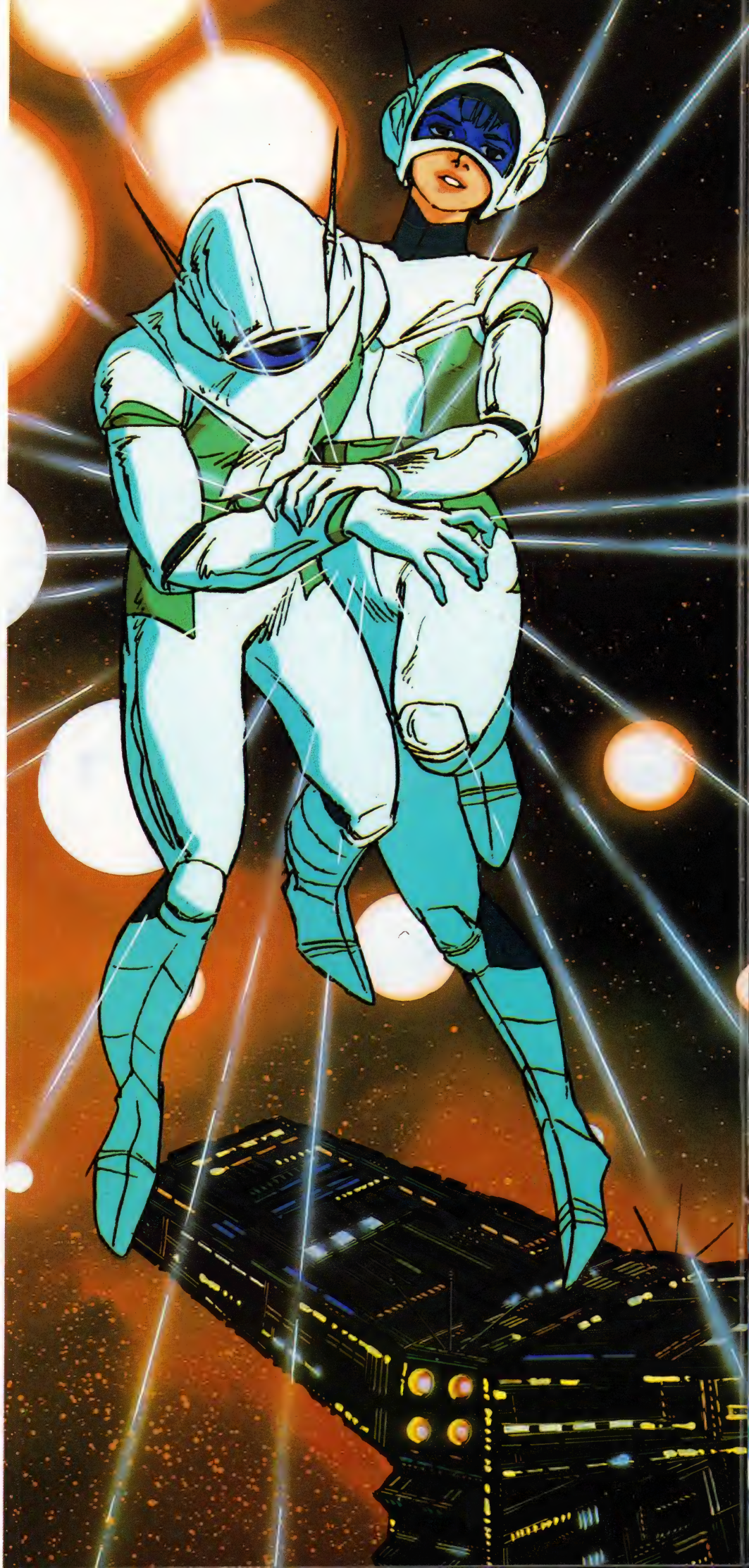
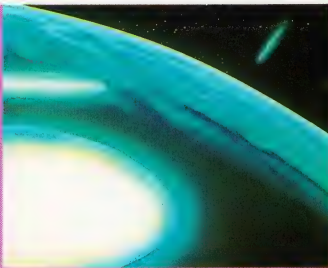
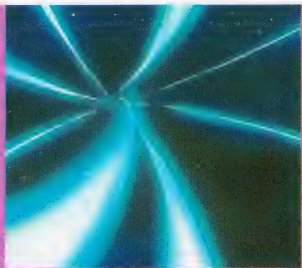
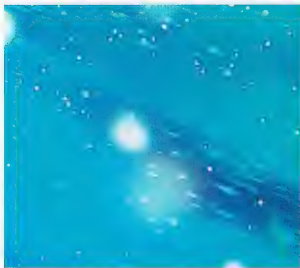
彗星からの宇宙塵は、シェリルをズタズタに引き裂いた。そして、その体はイデオンガンの余震にとりこまれて消滅していた。その時であった。ソロシップから発生した流星群が、ふたつの地球に落下し、その人口のすべてを消しさったのは…。それぞれの故郷の死は、遠のく通信で、ソロシップのクルーも、ドバも知った。

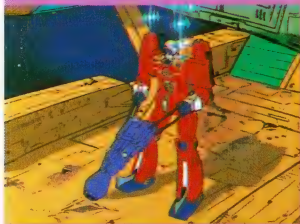
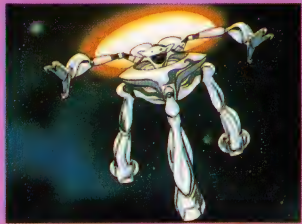
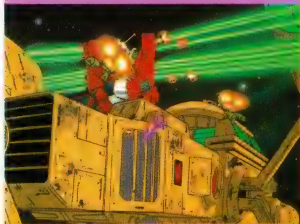
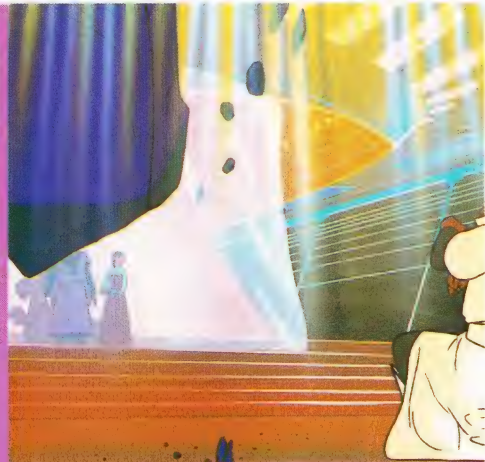
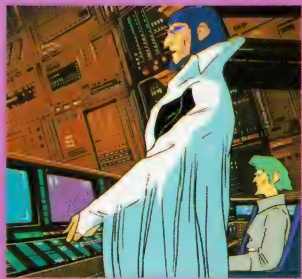
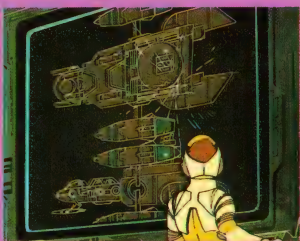
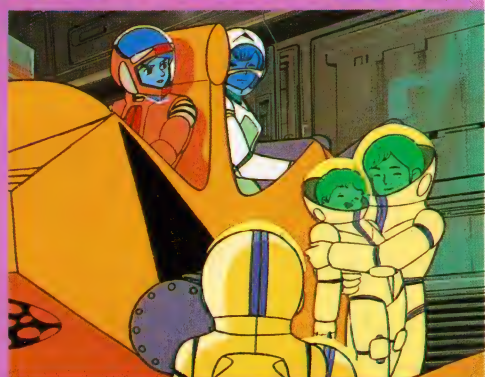
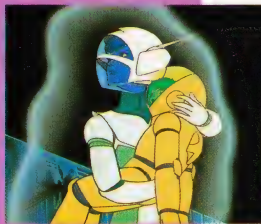
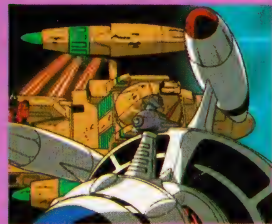
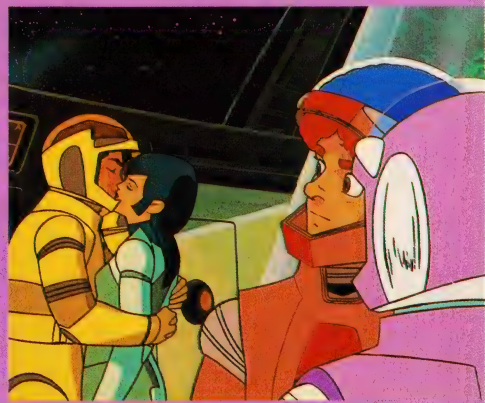
そのソロシップの甲板で、カララは、ルウを捜していた。ルウの生存は、カララのお腹の赤ちゃんが教えてくれた。ソロシップの無事を知ったハルルは、小型メカ、ジョングによる白兵戦を決心した。ソロシップを囲んで、ハルルの部隊がデスアウトする。たちまちソロシップの甲板に、パワー不足になったイデオンの周囲に、無数のジョングが降り立った。船内では、アーシュラやファードまでが、銃を取ってバッフ・クランを迎え撃った。イデのパワーは、カララとルウのいなくなった今、最低レベルに近づいていた。ジョングは、なおもイデオンに取りつく。

その時、カララがルウを発見した。カララの腹心の輝きはさらに増し、ソロシップ全体をも包みこんだ。それは、ハルルの腹心キラルルとトロロフのザンザ・ルブのビームをはね返していた。

コスモは、敵のジョングを奪い、カララとルウを船内へと連れ戻した。船内に侵入したバッフ兵を倒し、コスモはようやくブリッジにたどりついた。それと同時に、ソロシップは再び亜空間へ脱出した。

ハルルは、イデ発動の中心にカララが存在することに気づいた。カララを狙えば良い。また、ドバも超新星のエネルギーを利用した兵器、ガンドロワの使用を指示していた。

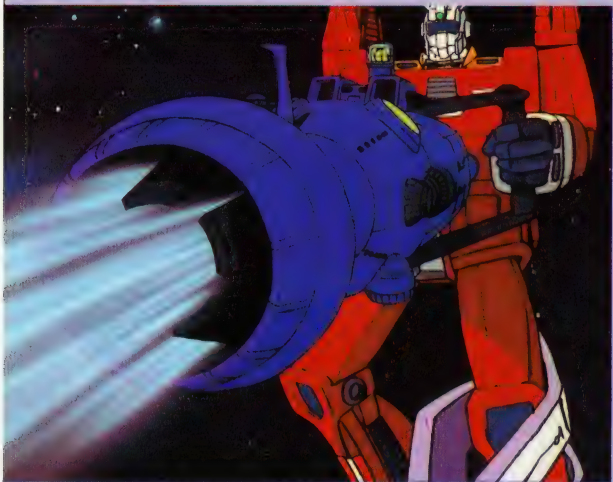
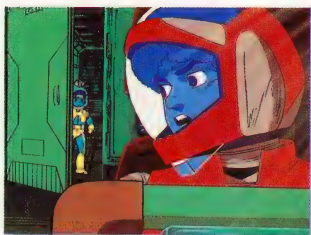
カララの妊娠を知ったクルーは、その胎児がイデの中心であることを確信した。カララの子は、誰いうとなくメシアと呼ばれ、メシア中心の防御ラインが形成された。そして、ほんのひと時の安らぎの後、再び戦いが始まった。

流星がソロシップのいた空域から打ち出され、地球とバッフ・クランを滅ぼした。

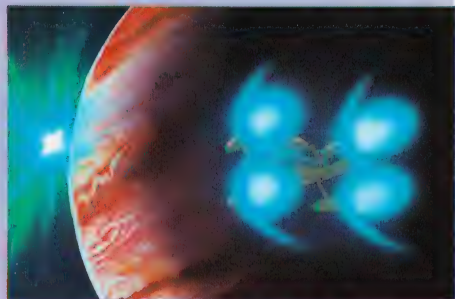
ズオウ大帝もまた流星の直撃で死んだ。

甲板をはがし、イデオン波導ガンを取り出す。

バッフ・クランの戦闘メカが続々と襲いかかった。

カララもルウも無事に救出された。

つかの間の休息は、心を和ませる。

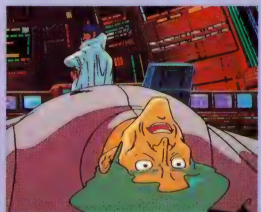
姉と妹——憎しみと懐しさがふたりの間に流れ、やがてビームがカララを貫いた

キラルル、トロロフのふたりを連れ、ハルルはソロシップ内に突入した。ソロシップ内の防御がいちばん厚い所—そこにカララがいる。ハルルは、そう考えていた。ハルルたちを発見したロッタは、前衛のトロロフを倒したものの、キラルルの銃に消し飛んだ。

そしてハルルは、今、目の前に、妹の姿を見た。姉妹は、お互いに銃をむけあった。カララのビームはそれ、ハルルのビームがカララのサンバイザーを砕いた。即死であった。ハルルは、それで目的を達したものと、ソロシップから引き上げた。しかし、カララは死んでも、その体内に息づく小さな魂は死んでいなかった。カララの体から再び光が発し、暖かくゆれて広がった。ソロシップは、第二波の攻撃の中から亜空間へ脱した。しかし、最大の戦いが、彼らを待ちうけていたのだ。

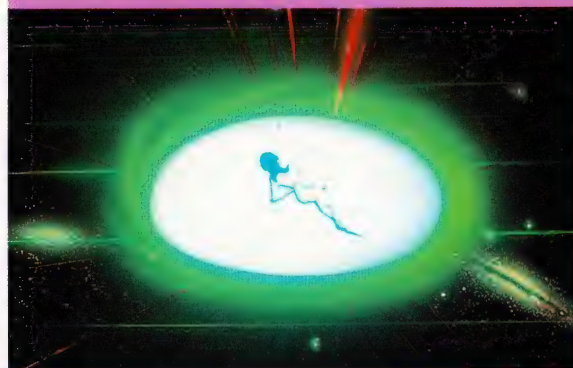
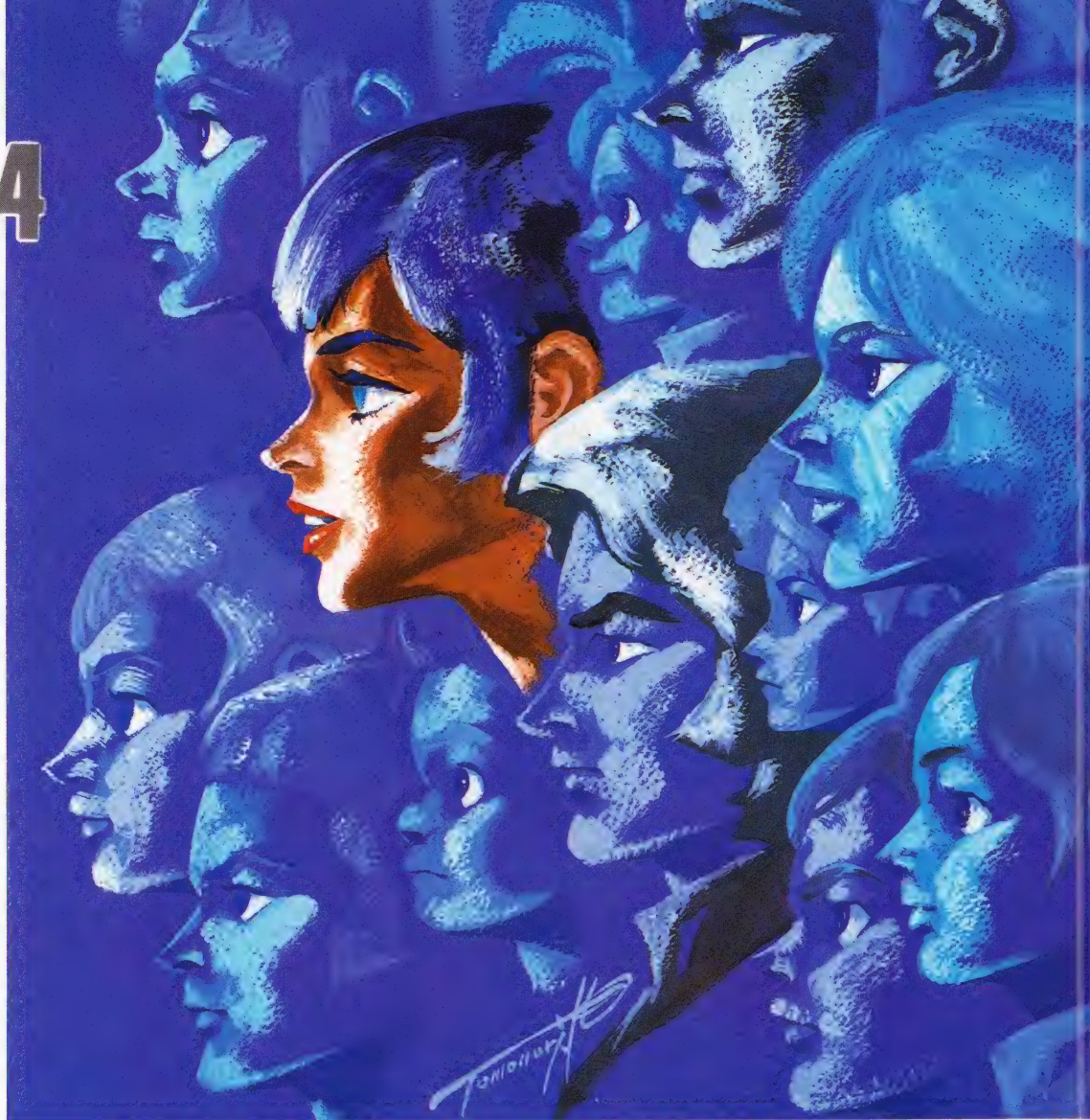
ハルルは、父ドバの前で、カララ殺害を報告した。その行動の底に、ベスとの愛を実らせたカララへの嫉妬があったことも、ハルル自身は悟っていた。ドバは、全軍にソロシップをガンドロワの軸線上に追いこむように命じた。両者は、イデの意志によってか、決してお互いを見失わなかった。すさまじい戦いは、ソロシップ内のカーシャを倒し、亜空間航行中のハルルを消滅させた。そして、イデオンとソロシップの前に、巨大な最終兵器ガンドロワの姿が現れた。

カララは姉の銃弾で倒れる。

もはや戦いは人の意地と憎しみだけで続いていた……。

カララから発した暖かい光は、敵味方を問わず、戦士たちに拡がった。

「私たちは！なぜ生きてきたの!?」

コスモの心を悲しみと怒りが貫く。

カーシャもまた死んでいく。

STORY DIGEST B4

ガンドロワの最終攻撃開始

カララの魂は体を離れて翔びたった。

ついにイデは発動した。人間たちの意志は、メシアの誕生を待っていた。

コスモも、やがて目覚めた。

イデの輝きのもと人々ははるかに再生への旅に……

イデオンの見つけた巨大な影は、ソロシップのレーダーにも輝きとなって現れた。それは、すでにビームを発射しているガンド・ロワであった。ビームは一条の光の奔流となって、ソロシップに、イデオンに、そしてバッフ・クランの攻撃隊にぶつかった。ソロシップとイデオンは、かろうじてイデのバリアーにより消滅はまぬがれたものの、その戦力はほとんど失っていた。

そのソロシップの中で、カララの体が光に包まれ、空中に浮かび上った。イデの発動は、すでに始まっていた。

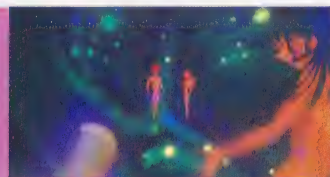
イデは、コスモにドバの存在を示した。イデオンとソロシップは、傷ついた体をデスドライブで、ドバの乗るバイラル・ジンの正面に出現させた。コスモとドバは、ほんの一瞬に互いに思考を交した。

「憎しみを根絶やしにするために…」
「我らを戦わせたというのか！」

その答は、イデの意志の中に用意されていた。ドバは、ブリッジで戦いを非難する士官たちに殺された時、それを知ったのかもしれない。

ソロシップの中にも、息のある者はほとんどいなかった。そしてイデオンもまた、ガンド・ロワをイデオンソードで断ち切った瞬間、その白熱の光の中にバラバラに分解されていった。

深い闇と星の光の中に、今、新しい光が無数に生まれた。光は、宇宙を駆け、やがて集合した。それは、ギジェであり、シェリルであり、さらにドバやハルルたちの形をしていた。彼らは今、メシアとともに旅立とうとしていた。そして、コスモもまた、キッチンやカーシャと、光の集団の中に入っていった。メシアとルウが、それらの光の先頭に立った。光の群は、やがて小さな恒星系の、小さな惑星に降って、消えていった。

惑星表面――波が寄せ、波が返す。鳥が飛び、陽が輝く。繰り返し、繰り返し……また、歴史が始まる。

メシアは人々を導き、新たなる星、新たなる生のため、宇宙をかける……。

そして、新しい歴史が始まる。

イデオンジャーナル

PRODUCTS NOTE
THE IDEON FREAK
IDEON ALMANAC
STAFF & CAST

IDEON JOURNAL

★映画『伝説巨神イデオン』完成への道を、スタッフやファンの動き、イベントを含めて追う！"イデ"は発動したのか。

1981年——『伝説巨神イデオン』テレビシリーズが終了した時から、映画『イデオン』のスタートが切られた。新しいアニメーション映像を目指すスタッフの力は、その画面に結集し、それを待つファンの活動も活発化していった。

製作ノート ●PRODUCTS NOTE

全スタッフの心が 映画化にむかって ひとつになった!!

ここに発現するイデの力!!

映画『伝説巨神イデオン』の打入りパーティーは、昭和56年11月、日本サンライズのスタジオ近くの某レストランで行われた。参加したのは、『伝説巨神イデオン』のスタッフ全員で、富野総監督、湖川アニメーション・ディレクター、長谷川プロデューサーなどを中心に、映画化への決意を固めた。

挿入歌はアニメソングを超えた新しい形の曲!!

映画『伝説巨神イデオン』の挿入歌は『セーリング・フライ』と『海に陽に』の2曲。どちらも井荻麟（富野総監督の作詞ペンネーム）すぎやまこういちのゴールデンコンビの作詞、作曲。歌は、ジャズ界の新進ボーカリスト水原明子。この挿入歌のためのオーディションで選ばれた歌手だ。

レコーディングは、4月9日、東京・目黒のメディアスタジオで行われたが、富野総監督は「どちらの曲も、今までの"アニメソング"というレッテルをはがそうとしています。まったく新しい形を目指しました」と語り、作曲のすぎやま氏も「宇宙の広さを出そうとしたのが『セーリング・フライ』、神秘さを狙ったのが『海に陽に』です」と言っていた。透明な声で、この2曲を歌う水原明子の声は『伝説巨神イデオン』のイメージを、さらに新たにしたようであった。

熱気につつまれた製作発表

'81年12月８日、東京・銀座"エスカルゴ"にて、映画『伝説巨神イデオン』の製作発表記者会見が行われた。それまで、アニメ専門誌などでは、すでに映画製作の情報は流されていたが、正式な発表はこれが初めて。話題を呼んだ『ガンダム』の富野総監督の作品とあって、記者席からは多くの質問が飛んだ。

精鋭スタッフがイデオンに集結

『伝説巨神イデオン』の作画は、テレビシリーズ放映終了直後から続けられていた。富野総監督のもと、湖川アニメーション・ディレクターたち作画スタッフは、時間の都合でテレビシリーズではできなかったきめ細かい画面を目指し、美術もそれにマッチした手のこんだ出来となった。また、撮影でも時間のかかる特殊効果を使い『イデオン』の質をグンとアップさせた。

特にキャラクターの動き、芝居は、まさにアニメを超越したといえる出来ばえで、その表情、動作には見事に彼らの感情や思想が表れている。日本サンライズの、精鋭スタッフが、この大作にかけた情熱の結果なのだ。

深い響きを求めた壮大な音楽

音楽を担当するのは、テレビシリーズの音楽を作曲し『交響曲イデオン』を作りあげたすぎやまこういち。「アニメという若い人には身近なメディアの音楽ですから、絶対に手ぬきはできない」と記者会見で決意を語った通り、音楽として聞いても一級品。『交響曲イデオン』が、クラシックとしては驚異的なヒットチャートに載ったという事実も、これを聞けば了解できるというもの。映画『イデオン』は、アニメを超えた絵と、アニメ音楽を超えた音楽で、その魅力を増した。

声の演技でフィルムに生命がやどる

映画『伝説巨神イデオン』の声の演技陣は、ファンの強い希望もあり、イメージを変えないためにも当然シリーズに登場した声優でキャスティング。テレビシリーズからのファンも、自分の作り上げたイメージから離れないコスモやベスに会えることになった。アフレコは、６月初旬に行なわれ、「接触篇」「発動篇」とも、無事に録音が終了。それぞれのキャラクターに、生命が宿った。

WELCOME TO IDEON WORLD

イデオン・フリーク

映画『イデオン』は、ファンのパワーが押し上げた作品！なんて噂が広まっちゃっているけど、その実体はどうなんだろう。実は――まったくその通りで、ギンギンにノリまくったファンパワーは、ここに紹介する一部を見てもらっても、その熱気のすさまじさがわかると思うよ。

爆発！誘発！噴出！
イデオンファンのエネルギー

ファンパワー

発動せよ！

4月17日、ファンによる『イデオン』バック・アップの打ち合わせが松竹本社で行われた。集まったのは『イデオン』のファンクラブの面々。その企画アイデアたるや、大人の思考をバラバラにするようなものがいっぱいで、スタッフは完全に押されぎみ。イデオン・ファンパワーが、映画公開にむけて発動した瞬間だったのだよ。

根暗はさよなら！明るいイデオン

'82年春にその物語にピリオドを打った『機動戦士ガンダム』は、キミたちの記憶にまだ新しいと思うけど、『ガンダム・テレフォン・ジョッキー』という情報電話があったのを憶えているかな!?『イデオン』でも、同じ趣向で情報を流したんだけど、これが『ガンダム』とは一転したムードを持っていた。『ガンダム』の時は、今や有名人（？）になった倉佐増夫クンなんて、まんま根暗少年が登場したりで、まったくの根暗ムード。今回もファンの作るジョッキーだが、ムード一新！明るく明るくいったわけ。名づけて『明るいイデオン』ときたから、それはもう超新星なみの明るさ。もっとも、あの倉佐クンも、2度ほど未練たっぷりに登場はしたのだけどね。

イデ音頭でどどんがどん！

『伝説巨神イデオン』で、夏の盆踊りを楽しんじゃえ――というのかどうか『イデ音頭』が登場。これがなんと映画と同じ「接触篇」と「発動篇」の二部構成ときた。「接触篇」は『東京音頭』のかえ歌、「発動篇」はテレビシリーズのオープニング・テーマ『復活のイデオン』に振りつけがしてある。5月5日の〝打入り祭り〟では、つめかけた数百人のファンとスタッフが、『イデ音頭』で踊りまくった。

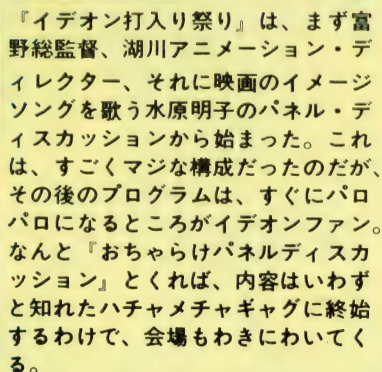
ノリノリだぜえ! ディスコ・イデオン

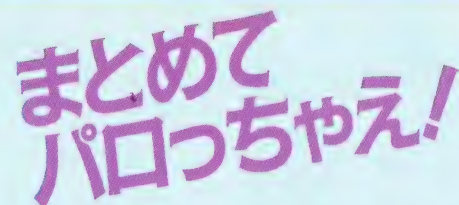
なんたってイデ・サウンド! これでノラなきゃウソ!!

『イデ音頭』が純日本調（?）だとすれば、こちらはディスコ・サウンドの『イデオン』。演奏は、やはりファンのグループ〝ミルキーモスラアンドマグナムトラバーユ〟。演奏者のネーミングもかなり不可思議だが、曲の方もこれまたなかなかのクエスチョンで、イントロは『ガンダム』と『ザブングル』の音楽から入るというオモシロもん。この曲もまた、5月5日に盛大にデビュー、ノリまくるファンを、さらにノセちゃったという罪は重いゾ!!

フィーバー! 打ち入り祭り

5月5日は〝子どもの日〟なんてのは、もう古いのだ。5月5日は〝イデの日〟になっちゃった。というのも『イデオン打入り祭り』が東京、晴海で開かれたからとはちと苦しいが、この日のファンパワーはすごかった。集まったファン数百人。催し物を進行するのも、それを見るのもファンという、これまでにはなかったパターンで、ギンギンにノリまくったわけ。もちろん、メイン・スタッフも舞台に出たが、その時のトミノコールは、まんまイデさまの力ではなかったのかな。

『イデオン打入り祭り』は、まず富野総監督、湖川アニメーション・ディレクター、それに映画のイメージソングを歌う水原明子のパネル・ディスカッションから始まった。これは、すごくマジな構成だったのだが、その後のプログラムは、すぐにパロパロになるところがイデオンファン。なんと『おちゃらけパネルディスカッション』とくれば、内容はいわずと知れたハチャメチャギャグに終始するわけで、会場もわきにわいてくる。

そのノリかたは、以降『紙しばいいなばの赤イデオン』『コスチュームショー』とボルテージを上げる一方で『明るいイデオン』の公開録音や『超アマチュア・アニメファン』のサウンド部門のオーディションとなる頃には、巨人軍の24番なみのゼッコーチョー!! そのまま『ディスコ大会』『イデ音頭』となだれこんだのだ。

まとめてパロっちゃえ!

映画もスタッフも、その他のサンライズ作品も、みんなミックスしてパロっちゃおうというのが、この『イデオン狂詩曲』。今ではもう存名な上井草村に山賊が攻めてくる。村人たちは、村を守るべえと、それぞれ愛用の耕運機で出撃という、バカらしくもアホらしいお話なのだが、ご覧の通り、サンライズスター（?）総出演。危機一髪の時に出現する山神さまは、いわずと知れたイデオンなのだ。

イデオン族出現!?

原宿・表参道といえば、竹の子族以来〇〇族のメッカという感じなんだけど、5月9日にここに出没したのは〝イデオン族〟なる一団。もちろん、イデオンファンの集団なのだが、まっ赤なつなぎにイデオンはっぴとギンギンに目立とう精神を発揮! あちこちで流れるロックンロールを向うにまわし、踊るは『イデ音頭』とくれば、表参道散策中の人もついつい目がいくというわけ。しかし、原宿あたりで聞く『イデ音頭』というのも、なかなかのしたたかさを持っているようで……。

WELCOME TO IDEON WORLD

イデオンキャスト

IDEON CAST

『伝説巨神イデオン』に、文字どおり生命を吹きこむアフレコ。のべ3日間にわたる、苦労を語ってもらったら……。

林一夫　ギジェ

ギジェという男は一本気で、すごく考え方が純粋。映画では、シェリルとの愛などの弱さの部分がなく、武骨一辺倒。イデイデって死ぬときも、けっこう納得して死んでいる。映画ではギジェのエキス編という感じですね。

テアトル・エコー所属。「宇宙戦艦ヤマト」の南部ほか、洋画の吹き替えでも活躍中。

井上瑤　シェリルとルウ

映画では、シェリルが突然狂ってしまうんですが、テレビシリーズを見ていない人には、ちょっと唐突なシーンが多く、難しいかもしれませんね。

ピラミッド所属。「機動戦士ガンダム」のセイラなど。司会、クイズ番組の構成などでも活躍中。

塩屋翼　コスモ

リハーサルを見て、やはりすごい映画だと思い、あまりお酒も飲まず、節制してのぞみました。作品に負けないようがんばりました。自分でもやった！という気持ちがあるのか、ちょっと興奮しています。僕の力を出しきったなっていう作品です。

青二プロ所属。「海のトリトン」に主役トリトン役でデビュー。コスモ役で再び注目を集めている。

井上和彦　ハタリ

普通こういうものって、ひとりやふたり生き残るけれど、この作品では、全部が消えちゃう。その感覚が、想像の段階ではわからなかったんですけど、絵で見せてもらって、やっとわかってきました。スリル、期待感があって、楽しい仕事でした。

ぷろだくしょんバオバブ所属。「キャンディ・キャンディ」のアンソニー他、二枚目役で活躍。

松田たつや　デク

デクは、叫んでばかりいるんです。でもその中で、驚き、怖いときなどいろいろ気持ちのうえで、使いわけなきゃいけないし……。僕は戦争経験もないし、感覚がわかりにくくて、緊迫感が出たか心配なんですけど、自分なりに精一杯やりました。

劇団こまどり所属。この「伝説巨神イデオン」のテレビ版でデビュー。

田中秀行　ベス

接触篇は、カララとの恋愛とか日常の部分がカットされて、少し残念です。でも、テレビが打ち切られて、あの後どうなるのかと思っていたんですが、やっと今、最終回をやったという実感です。僕自身、観客として映画を楽しみにしています。

青二プロ所属。「ドカベン」の山田太郎「宇宙戦艦ヤマト」の土門など。

塩沢兼人　ジョリバ

ジョリバはちょっといかつい人なので、テレビでは、少しだけ力を入れて、しゃべっていましたが、映画では楽にやれました。とにかく難しい話で、僕も完成してから見てみないとわかりませんが、発動篇のエンディングには感動しました。

青二プロ所属。「戦国魔神ゴーショーグン」のブンドル役で、女の子の人気を集める。

戸田恵子　カララ

カララはいい女だってよく言われるんですが、私はよい女だと思うんです。映画では、突然そうなってますけど、本当はいろいろな変化があったんじゃないかな。とにかく、映画をやって、これでカララと最後までつきあえたと実感しています。

劇団薔薇座所属。「機動戦士ガンダム」のマチルダで、本格的にアニメ出演。若手の有望株。

白石冬美　カーシャ

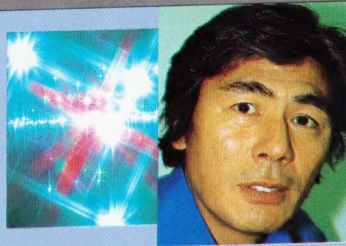
テレビを知っている人には、印象深いセリフなどがカットされて、ものたりないかも。でもコンパクトになってわかりやすくなったと思います。登場人物はみんな個性の強い人ばかりだけど、私の地に近いのか、カーシャはやりやすい役でした。

青二プロ所属。「機動戦士ガンダム」のミライなど。DJとしても有名。

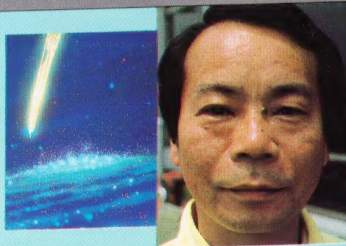
鵜飼るみ子――キッチン

映画では、キッチンとしてのエピソードじゃなくて、コスモの人生の一部っていう感じ。ラストシーンのために、発動篇の最初に登場しましたが、ナレーションの変形みたいな感じで、できればテレビのとおりやりたかった。でも、最後に魂になってから、コスモにキスができてよかった……。

オフィス央所属。「六神合体ゴッドマーズ」のロゼなど、美少女役が多い。

柴田秀勝――イデ

テレビでは他の人がやった役、それも1シーンだけ。しかも顔のない、抽象的な、光みたいなものの声なので、難しかった。僕は1シーンだけで終わって、長時間やっていた人たちに、申し訳ないような気もしますが、逆に、その少ないセリフのために、あえて僕が呼ばれたことを考えると、大変な責任を感じます。

青二プロ所属。「銀河旋風ブライガー」のナレーションなど、渋味のある声で有名。

田中信夫――ナレーター

とにかく、すごく難しいんですねェ。なかなかの大作だなという一言につきます。この作品とは、予告篇のナレーションから出ていますが、題材が、スケールの大きいものですから、それに負けないようにと思ってやりました。アフレコでは部分部分で見ていて、全体を通して見てみたい。できあがりが楽しみです。

俳協所属。「科学忍者隊ガッチャマン」の総裁X、洋画のバート・レイノルズの吹き替えなどで有名。

木原正二郎――ダラム

この映画のイメージを要約すると体内の戦い、それが、宇宙全体と同じイメージで描かれたと思うんです。全員が死んで、再生するというのが、見ている人に伝わるといいんですが。

河所属。「戦国魔神ゴーショーグン」など、声優、ドラマのほか現代語りでも活躍。

松原雅子――アーシュラとマヤヤ

テンポがすごく早くて、再放送を見るようにしてたんですけど難しかった。それにしても、ふたりとも、死に方がショックでした。

フリー。数多くの作品で、子ども役として活躍中。

梨羽雪子――トロロフ

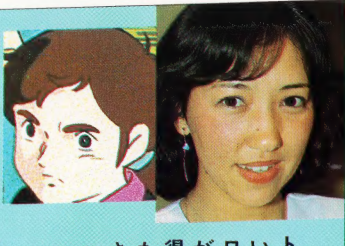
これは宇宙の中での戦争物。でも死ぬという感覚になれないでほしい。最後で輪廻する。あのシーンに代表されている、人間の生き方のすばらしさ、美しさを見てほしいですね。

Kプロダクション所属。「忍者ハットリくん」のママなど、声優としてはまだ新人。

尾崎桂子――キラルル

敵、味方が良い悪いではなく、生きるためにだけ戦っている。メカニックの中に、うまく人間的なものを織りこんだ、おとなっぽい映画で、特にラストシーンはきれいでした。

オフィス央所属。「ナッシュビル」「イルカの日」など洋画の吹き替えで活躍中。

山田栄子――ロッタ

映画では、単なるストーリーの進行役っていう人が多かったのに、ロッタは、心情の変化がよく描かれていて、得な役だと思います。ただ、ロッタにも恋をさせたかった！ 私はロッタはベスが好きだったんじゃないかと思ってるんですが……。

オフィス央所属。「赤毛のアン」のアン、「忍者ハットリくん」の影千代など。

石森達幸――ドバ

この作品は、アニメ版『地獄の黙示録』といった、大作アニメ映画ですね。人間と神はどこまでいっても平行線という感じがありました。最後で、みんな裸になりましたが、結局、人間が神になるには、あれしかないっていうことでしょうか。

太陽プロモーション所属。主に、洋画の吹きかえや、実写ドラマで活躍。

麻上洋子――ハルル

今まで、こういう役やったことなくて、また挑戦したい役だったので、一生懸命やりました。テレビより私のシーンが多くてうれしかったけど、こどもの首がとんだりして、そういうところはちょっと……。でも最後に救いがあってよかったな。

NPSテアトル所属。「宇宙戦艦ヤマト」森雪役で人気を集める。

加藤精三――ギンドロとズオウ

僕の役は、大帝とギンドロという両極端。特にギンドロは、彼自身の最終目的や立場がよくわからないので、難しかった。とにかく、全部死んでしまうというのが、印象深かった。

俳協所属。「巨人の星」星一徹ほか、洋画の吹き替えで活躍。

WELCOME TO IDEON WORLD

CREDITS

企画製作　(株)日本サンライズ
配給　松竹株式会社
製作　岸本吉功

企画　山浦栄二
伊藤昌典
原作　矢立　肇
富野喜幸
総監督　富野喜幸
監督　滝沢敏文
脚本　山浦弘靖
富田祐弘
渡辺由自
松崎健一
キャラクターデザイン　湖川友謙
メカニカルデザイン　樋口雄一
サブマリン(A)
アニメーションディレクター　湖川友謙
音楽
作・編曲　すぎやまこういち
編曲　あかのたちお
小六禮次郎
イメージソング「セーリング・フライ」(A)
作詞　井荻　麟
作編曲　すぎやまこういち
唄　水原明子
「海に陽に」(B)
作詞　井荻　麟
作編曲　すぎやまこういち
唄　水原明子
レコード　キングレコードK07S-301
アートディレクター　中村光毅(A)
オーディオディレクター　浦上靖夫(A)
作画監督　湖川友謙(A)
坂本三郎(A)
谷口守泰(A)
二宮常雄(A)
美術監督　中村光毅(B)
撮影監督　岡芹利明(B)
音響監督　浦上靖夫(B)
アニメーター　坂本英明
遠藤栄一
矢木正之
恩田尚之
詫　祐二
湯本慶久
北瓜宏幸
辻　清光
芥川義明
窪岡俊之
湖川真樹江(A)
田代恵子
稲野義信
板野一郎
平野俊弘
千葉順三
今渡雄一郎(A)
大森英敏
大川こうぎ
村上　茂(B)
木口　準(B)
吉森一彦(B)
平田一清
鎌田君枝
手塚由紀
小林明美
垣野内成美
渡部文雄
坂本三郎(B)
青鉢芳信
伊東　誠
小野順三
星野絵美(A)
伊藤絵美(B)
谷口守泰
上井やすよし
毛利和明
河村佳江
貴志夫美子
高橋祐子
町井由起子
山崎享子
桑山邦雄
興水好子
真野鈴子
浜津　守
戸川俊信
前島和子
八幡　正(A)
福地信之(A)
武藤照美(A)
島田英明(A)
篠田プロ(A)
笹木寿子(A)
田中健一(A)
篠崎治子(A)
渡辺ひろし(A)
服部あゆみ(A)
富岡秀行(A)
ささきとしこ(B)
動画チェック　ビーボオー
浜津　守(B)
田中健一
背景　獏プロダクション(A)
ビックスタジオ(A)
グループアップル(A)
西川増水(A)
宮前光春(B)
今井利恵(B)
谷口百範(B)
松田千鶴子(B)
橋田昌典(B)
南郷洋一(B)
本田　修(B)
協力　グループアップル(B)
色指定　芝崎素子(A)
青木佐恵子(A)
新野こずえ(A)
高島清子(A)
中田節子(A)
田内成子(A)
吉井三恵子(A)
高田峯子(A)
佐々木尚子(A)
花津谷あつ子(A)
斉藤真奈美(B)
検査　高島清子(B)
仕上制作　宮坂光一郎
新作色指定　斉藤真奈美(B)
仕上　サンライズスタジオ(A)
スタジオ雲雀(A)
アドコスモ(A)
きのプロダクション(A)
ジャスト(A)
マキプロダクション(A)
スタジオライフ(A)
高田峯子(B)
佐々木尚子(B)
青木佐恵子(B)
大橋奈緒美(B)
藤沢節子(B)
西山規子(B)
協力　スタジオライフ(B)
ジャスト(B)
マキプロダクション(B)
特殊効果　土井通明
千場　豊
向井　稔
撮影　ティニシムラ(A)
玉川芳行
柳沢邦延
上田雅美
大内保行
渡辺英俊
小松さつき
編集　鶴渕友彰
現像　東京現像所
効果　松田昭彦
整音　中戸川次男
録音　A.P.U.スタジオ
音響製作　オーディオプランニングユー
音楽製作　サンライズ音楽出版
指田英司
タイトル　スタジオトライ
安食光弘
宣伝担当　野辺忠彦
制作進行　後藤浩一
蟹山勝士
倉持智恵子
外池省二
飯田茂治
網野哲郎
望月真人
今西隆志
山本之文
加藤義貴
設定制作　並木　敏
制作助手　伊藤京子
演出コンテ　三浦将則
石崎すすむ
関田　修
貞光紳也
谷田部勝義
吉田　浩
藤原良二
菊地一仁
康村正一
制作協力　テレビ東京
東急エージェンシー
講談社
フィルム提供　盛　善吉

プロデューサー　長谷川徹

(A)は「接触篇」(B)は「発動篇」を担当。

編集・製作／日本サンライズ　発行／松竹株式会社事業部　定価500円

CAST

役	声
ユウキ・コスモ	塩屋　翼
ジョーダン・ベス	田中秀幸
イム・ホフ・カーシャ	白石冬美
フォルモッサ・シェリル	井上　瑤
アフタ・デク	松田たつや
カララ・アジバ	戸田恵子
ギジェ・ザラル	林　一夫
ギャバリー・テクノ	桜本晶弘
ナブール・ハタリ	井上和彦
イラ・ジョリバ	塩沢兼人
ファトム・モエラ	佐々木秀樹
マルス・ベント	三橋洋一
バンダ・ロッタ	山田栄子
フォルモッサ・リン	横沢啓子
ファム・ラポー	つるたきみこ
ノバク・アーシュラ	松原雅子
マラカ・ファード	高木早苗
ドバ・アジバ	石森達幸
ハルル・アジバ	麻上洋子
ギンドロ・ジンム	加藤精三
ダラム・ズバ	木原正二郎
ジルバル・ドク	池田　勝
ロウ・ロウル	徳丸　完
ダミド・ペッチ	田中　崇
ドルバ	滝　雅也
ドモエ	屋良有作
ギバル	戸谷公次
ビラス	島田　敏
シラク	中谷ゆみ
マヤヤ・ラウ	松原雅子
トロロフ	梨羽雪子
キラルル	尾崎桂子
キラニン・コルボック	徳丸　完
フォルモッサ・ロダン	塚田正昭
ユウキ・ロウル	玄田哲章
パーキンスン	筈見　純
軍人	亀井三郎
通信兵	伊井篤史
ルウの母	川島千代子
士官	亀井三郎
	大林隆介
兵士	大山高雄
	竜田直樹
	桜庭祐一
	玄田哲章
	伊井篤史
キッチ・キッチン	鵜飼るみ子
エミリア	中谷ゆみ
イデ	柴田秀勝
ナレーター	田中信夫

IMAGE SONG

海に陽に

井荻　麟・作詩
すぎやまこういち・作・編曲
水原明子・歌

キャルメロ色の重さから
ブルーの色をはえさせて
ふると流れる刻をうつして
悲しさ重い深海魚たち
星の光に似た夜光灯
潮の流れの目ざめの色に
かわる時代のゆらめきうつし
　ねむり疲れた子供たちが
　ねむり疲れた夜をあけさせる

風と嵐と夜までが
疲れた眠りはらいのけ
ふるとすぎゆく刻をうつして
くら闇おもく寝がえり忘れ
たゆたいうずく雲こがね色
潮の流れのぬくもりがたち
海の色まで血の色おぼえ
　ねむり疲れた子供たちが
　ねむり疲れた夜をあけさせる

キャルメロ色の重さから
ブルーの色をはえさせて
ふると流れる刻をうつして

企画・製作 日本サンライズ／松 竹 映 画